

令和7年度徳島県中学校
教育課程研究集会
「外国語科」

徳 島 県 教 育 委 員 会
外 国 語 教 育 担 当

本日お伝えすること

① 外国語教育の現状を知る

- ・生徒の英語力について
- ・全国学力・学習状況調査の結果より

② 外国語教育に係る取組を充実させる

- ・令和8年度全国学力・学習状況調査について
- ・MEXCBTの活用について
- ・AI等のデジタル技術の活用

③ 指導の質を向上させる

- ・中学校外国語で求めていること
- ・小学校外国語活動・外国語科、高等学校外国語科
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・グループ協議
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点における指導の在り方

本日お伝えすること

① 外国語教育の現状を知る

- ・生徒の英語力について
- ・全国学力・学習状況調査の結果より

② 外国語教育に係る取組を充実させる

- ・令和8年度全国学力・学習状況調査について
- ・MEXCBTの活用について
- ・AI等のデジタル技術の活用

③ 指導の質を向上させる

- ・中学校外国語で求めていること
- ・小学校外国語活動・外国語科、高等学校外国語科
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・グループ協議
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点における指導の在り方

目標4 グローバル社会における人材育成

（略）豊かな語学力、異なる文化・価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力、新しい価値を創造する能力、主体性・積極性・包摂性、異文化・多様性の理解や社会貢献、国際貢献の精神等を身に付けて様々な分野・地域で国際社会の一員として活躍できる人材を育成する。（略）

【測定指標】

- 英語力について、中学校卒業段階でCEFRの **A1レベル相当以上**、高等学校卒業段階で**CEFRのA2レベル相当以上**を達成した中高生の割合の増加（5年後目標値：**6割以上**）
- 全ての都道府県・政令指定都市において、中学校卒業段階で**CEFRのA1レベル相当以上**、高等学校卒業段階で**CEFRのA2レベル相当以上**を達成した中高生の割合を 5年後までに**5割以上**にすることを旨とする
- 特にグローバルに活躍することが期待される層の拡充に向けて、高等学校卒業段階で **CEFRのB1レベル相当以上**を達成した**高校生**の割合の増加（5年後目標値：**3割以上**）

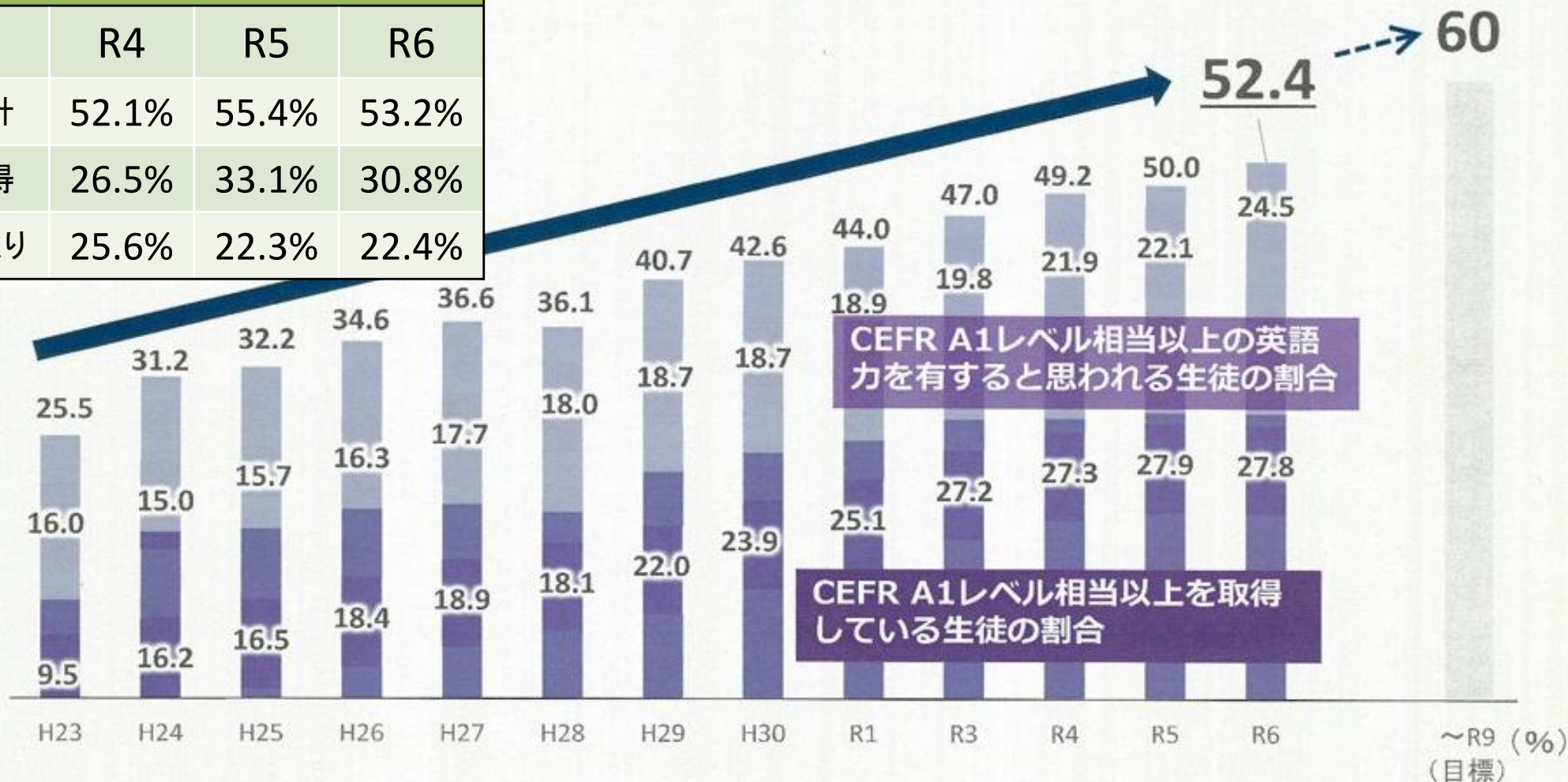
○外国語教育の充実

- 外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を着実に育成するため、教材・指導資料の配布や**デジタルを活用したパフォーマンステストの実施**など**ICTの一層の活用促進**、教師の養成・採用・研修の一体的な改善、特別免許状の活用や専科教師・外国語指導助手（ALT）配置等の学校指導体制の充実など、総合的に推進する。
- 各都道府県等の負担軽減など必要な改善を行いつつ、**「英語教育改善プラン」の策定とそれに基づく計画的な取組**を促し、英語教育実施状況調査等を通して継続したフォローアップを行うことにより、PDCA サイクルを着実に機能させ、生徒や教師の英語力や指導力の向上を図る。
- 大学入学者選抜において、「読む・書く・聞く・話す」の4技能に関する総合的な英語力を適切に評価するため、各大学の個別選抜について、優れた取組を幅広く普及するなど、各大学の取組を推進していく。

中学生の英語力（CEFR A1以上）

- CEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合は52.4%で増加

徳島県			
	R4	R5	R6
合計	52.1%	55.4%	53.2%
取得	26.5%	33.1%	30.8%
見取り	25.6%	22.3%	22.4%



※「第4期教育振興基本計画」(R5～R9)では、中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合6割以上を目標としている。

※ CEFR A1: 英検3級相当

※「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒」とは、実際に外部検定試験の級、スコア等を取得していないが、2技能又は3技能を測る試験におけるスコア、公式な記録としては認定されない試験のスコア、CAN-DOリストに基づく自校でのパフォーマンステストの結果、各教育委員会モデル校での検証に基づいて定めた目安等により、それに相当する英語力を有していると英語担当教師が判断する生徒を指す。

※ CEFR A1レベル相当以上を有するかどうかを判断する際に活用した根拠（複数回答可）：2技能又は3技能を測る試験におけるスコア51.3%、公式な記録としては認定されない試験のスコア41.1%、CAN-DOリストに基づく自校でのパフォーマンステストの結果52.2%、MEXCBTに搭載しているCBT問題の解答状況1.9%、AIツール等による英語力の判定結果1.8%、その他13.5%

※ 上のグラフでは、中学校第3学年の生徒に占める割合を算出している。

※ H23・H24の数値は「『18期共通通則としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」に基づく。

※ 割合の合計は、小数点第2位切り上げ前の数字を合計して算出しているため、小数点切り上げ後の割合の和と一致しないことがある。

英語教育実施状況調査

1. 生徒の英語力に関すること

1-(1) 以下に該当する生徒数を記入してください。

※「英語能力に関する外部試験」の結果が「CEFR A1レベル相当（英検 3 級など）以上」に当たるか否かについては、各試験団体のウェブサイトなどを参考にして判断してください。

※「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数」とは、実際に外部検定試験の級、スコア等は取得していないが、それに相当する英語力を有していると英語担当教師が判断する生徒の人数を指します。

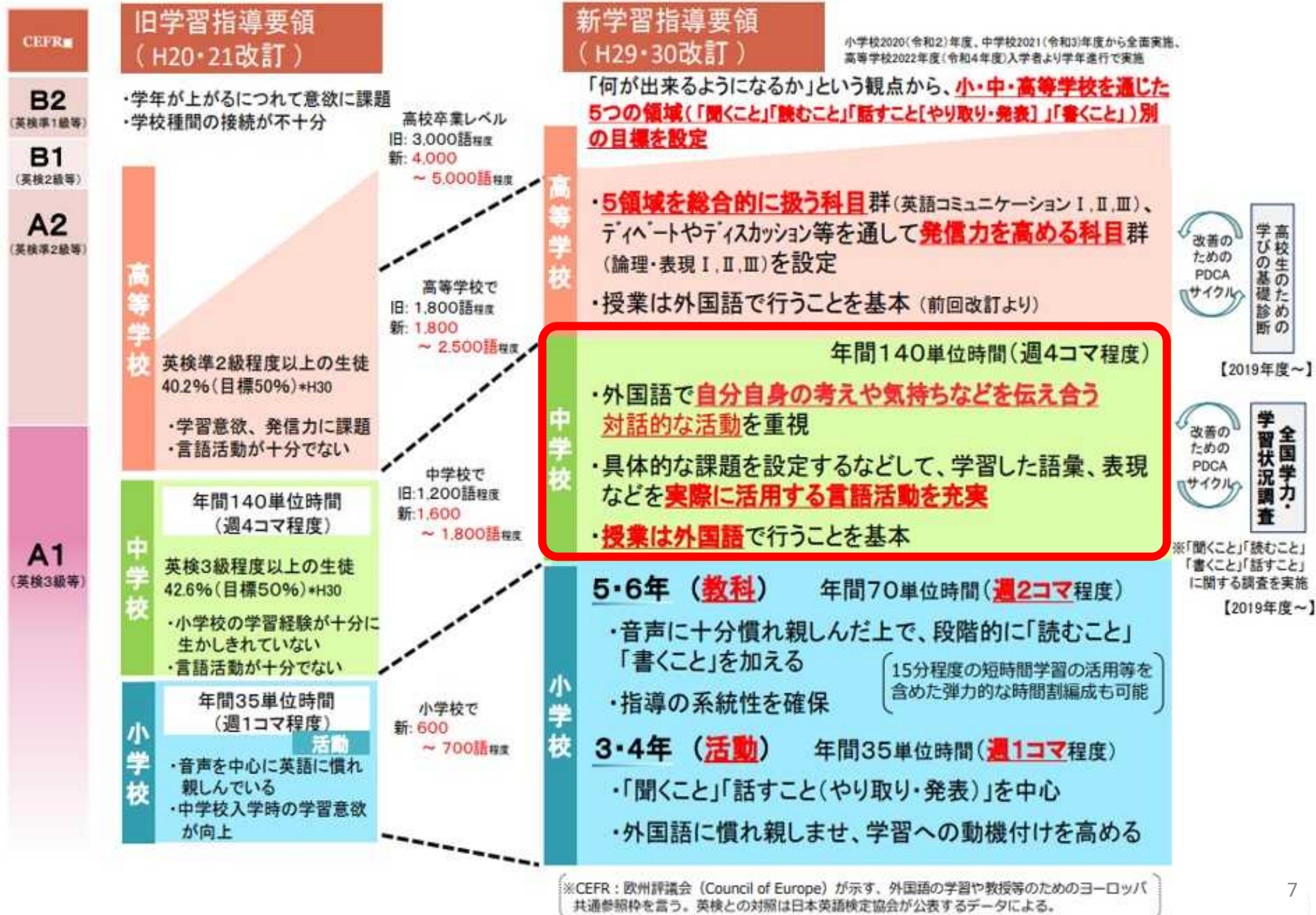
【判断方法の例】

- ・2技能又は3技能を測る試験におけるスコア
- ・公式な記録としては認定されない試験のスコア（例：英検IBAなど）
- ・CAN-DOリストに基づく自校でのパフォーマンステストの結果
- ・MEXCBT（文部科学省CBTシステム）に搭載しているCBT問題の解答状況
（参考：https://www.mext.go.jp/content/20240509-mxt_kyoiku01-100000662_1.pdf）
- ・AIツール等による英語力の判定結果

等

	第3学年に所属している生徒数（ア）	（ア）のうち、英語能力に関する外部試験を受験したことがある生徒数（イ）	（イ）のうち、CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒数（ウ）	（ア）のうち、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数〔（ウ）以外〕（エ）
人数	人	人	人	人
エラーチェック		○	○	○

外国語教育の抜本的強化（イメージ）



生徒の英語力に影響を与える諸要素（高等学校）

- 生徒の英語力には、英語による言語活動、教師の英語使用・英語力、ALTとの授業外活動等が影響（高校生のCEFR B1レベル相当以上の取得割合増加には、教師のCEFR C1レベル相当以上の取得が影響）
- ICT活用やALT参画が、言語活動や教師の英語使用の充実に影響



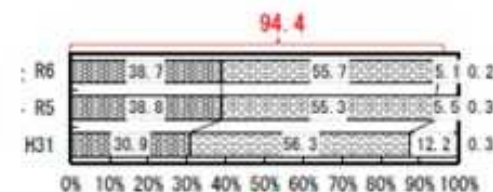
※ 中学校は、令和5年度調査の結果のため括弧で表記。令和5年度調査とは一部項目などが異なる。
※ 数値は相関係数（いずれも中学校は都道府県単位、高等学校は学校単位。相関係数はすべて5%水準以下で有意（いずれも両側））。
※ 生徒の英語力については、中学校：CEFR A1レベル相当以上の割合、高等学校：CEFR A2レベル相当以上の割合を基に算出（ただし教師の英語力との相関は、高等学校ではCEFR B1レベル相当以上の割合に基づき算出）。
※ 生徒の英語による言語活動は、中学校：生徒の英語による言語活動が50%以上の学校の割合、高等学校：生徒の英語による言語活動の割合を基に算出。
※ 教師の英語使用については、中学校：英語担当教師の英語による発話の割合が50%以上の学校の割合、高等学校：英語担当教師の英語による発話の割合を基に算出。
※ 教師の英語力については、中学校：CEFR B2レベル相当以上の割合、高等学校：CEFR C1レベル相当以上の割合を基に算出。
※ ALTによる授業外の活動は、中学校：一定の目的を持った授業外での教育活動の割合、高等学校：授業外での教育活動のうち、定期的に実施する活動の割合を基に算出。

中学校の授業改善の取組に **大きく進捗** が見られている 言語活動を行ったと回答する学校の割合は、**増加傾向**

聞く

英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか

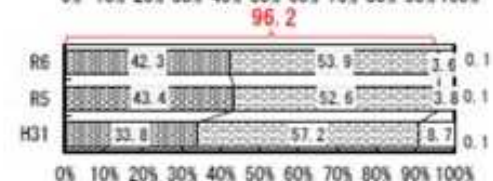
+0.3



読む

英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか

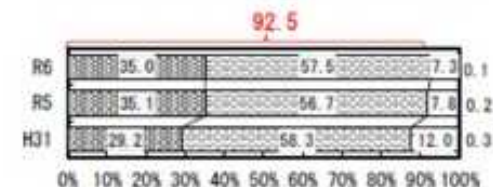
+0.2



書く

自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったか

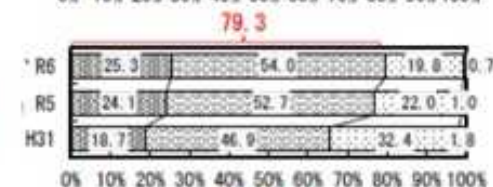
+0.7



話す
(やり取り)

原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行ったか

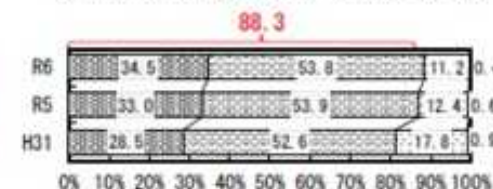
+2.5



話す
(発表)

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行ったか

+1.4



よく行った □ どちらかといえば、行った
あまり行わなかった □ 全く行わなかった

19

生徒の受け止めとの間にギャップはあるものの、やや減少

→引き続き、言語活動の目的や場面、状況等を明確に設定し、
生徒が言語活動に取り組む必然性を十分に意識できるようにすることが重要

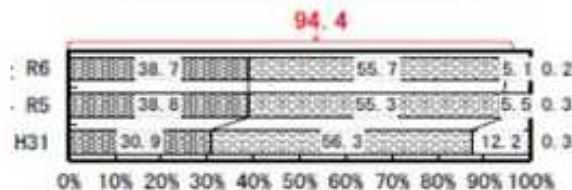
■ よく行った ■ どちらかといえば、行った
■ あまり行かなかった ■ 全く行かなかった

学校の指導状況

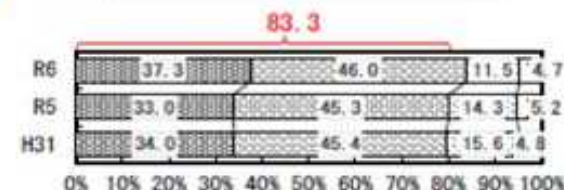
ポイント差

生徒の受け止め

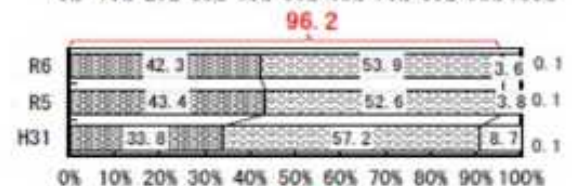
聞く



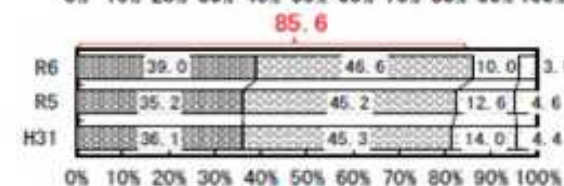
11.1
(-4.7)



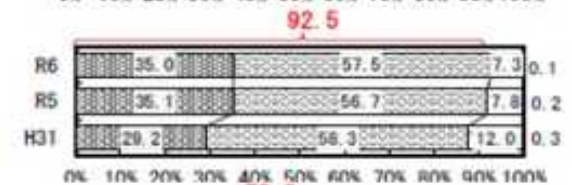
読む



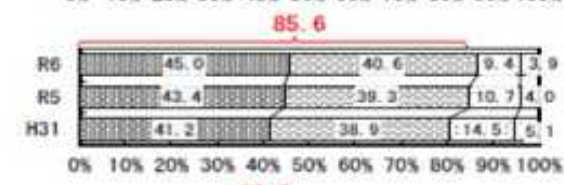
10.6
(-5.0)



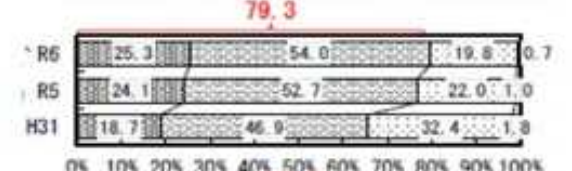
書く



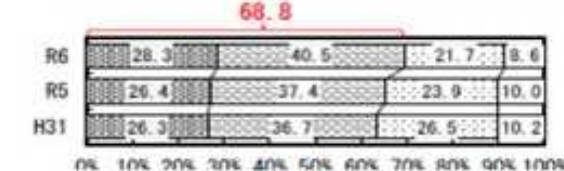
6.9
(-2.2)



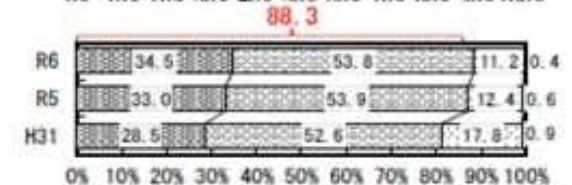
話す
(やり取り)



10.5
(-2.5)



話す
(発表)



6.0
(-2.2)



令和6年度全国学力・学習状況調査 質問紙（徳島県）

領域	質問	学校	生徒	ポイント差
聞く	英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか	88.5% (-7.8%)	78.6% (+4.3%)	-9.9% (+12.1%)
読む	英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか	94.9% (+1.1%)	80.7% (+5.3%)	-14.2% (+4.2%)
書く	自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったか	88.5% (+2.1%)	82.7% (+4.5%)	-5.8% (+2.4%)
話す (やり取り)	原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行ったか	74.4% (-0.9%)	65.2% (+7.2%)	-9.2% (+8.1%)
話す (発表)	スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行ったか	89.8% (+15.7%)	75.7% (+6.1%)	-14.1% (-9.6%)

※（ ）は前年度（R5）との比較

A層：学校SESが低い×英語力が高い学校12校のうち、「話すこと」の得点が高い順に6校を訪問調査を実施

＜英語の授業＞

- ☑自分の気持ちや考えを伝えられるようになることを授業の目標として、やり取り中心の授業が行われている。
- ☑対話的な言語活動を軸に、やり取りをしたあと、さらに思考を深める活動が行われている。
- ☑授業中に無駄な時間がない。先生も生徒もみな、授業に集中できている。
- ☑授業中に教員の指示がよくゆきわたっている。
- ☑生徒たちは、英語の言語活動を、真剣に、かつ、楽しそうに行っている。
- ☑言語活動中心の授業の中で、正確さに焦点をおいた指導が行われている。
- ☑言語活動の中での、教師のフィードバックが適切で効果的である。
- ☑正確さに焦点を置いた指導を行うときには、ICT機器をうまく活用している。

令和5年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した専門的な分析
(最終報告) 国立大学法人横浜大学 より一部抜粋し作成

徳島県英語教育推進計画COMPASS



1 基本的事項

(1) 趣旨

グローバル化が進展する社会を生き抜く『人財』を育成するため、「徳島県英語教育改善プラン」（平成28年度～令和2年度）の成果と課題を踏まえ、学校を取り巻く環境の変化に対応して、本県における英語教育の取組をより一層推進するための計画とする。

(2) 計画期間

令和3年度から令和7年度まで（5年間）



2 現状

「英語教育実施状況調査」結果より

生徒の英語力

【求められる英語力を有する生徒の割合】

中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上
徳島県中3生 ※全国44%
39%(H28)→49%(R1)

高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当以上
徳島県高3生 ※全国44%
36%(H28)→47%(R1)

言語活動の割合

【授業(50分)の半分以上の時間で言語活動を行っている割合】

中学校 62%(H28)→91%(R1)
高等学校 54%(H28)→59%(R1)

パフォーマンステストの実施

【スピーキングテストとライティングテストの両方を実施している割合】

中学校 89%(R1) ※全国86%
高等学校 38%(R1) ※全国36%



新しい学習指導要領への移行

外国語教育の早期化

ICT機器やデジタル教材等の整備

3 今後の方向性

- 児童生徒が英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う「言語活動」を通して学び、英語による発信能力（特に「話すこと」）を高めることができるようにする。
- 小学校から高等学校までを見通した学習到達目標を設定するとともに達成状況を適正に把握し、指導改善につなげる。
- 「生きた英語」に触れながら、実際に英語を活用する機会を提供し、児童生徒の英語学習への意欲向上を図る。
- 1人1台タブレット等のICT機器を効果的に活用し、指導の充実を図る。

4 今後5年間で重点的に取り組む施策

① 授業改善による児童生徒の発信能力の強化（特に「話すこと」）

考えや気持ちを
伝えよう授業

言語活動を通じた指導の充実

② 校種間連携の促進と指導のPDCAサイクルの徹底

小・中・高で
つながる指導と評価

小・中・高等学校の接続を意識した「CAN-DOリスト」の設定

パフォーマンステストによる達成度の把握

③ コミュニケーションツールとして実践的に英語を使う機会の提供

コミュニケーションのための
ツールとしての英語

学習段階に応じた英語体験活動の提供

国際交流、海外留学及び留学生の受入れ等の促進



1人1台タブレット等を最大限に活用

具体的な達成目標（令和7年度）

生徒の英語力

【求められる英語力を有する生徒の割合】

中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上
徳島県中3生・・・65%

高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当以上

徳島県高3生・・・65%

言語活動の割合

【授業(50分)の半分以上の時間で言語活動を行っている割合】

中・高等学校ともに100%

パフォーマンステストの実施

【スピーキングテストとライティングテストの両方を実施している割合】

中・高等学校ともに100%

3つの施策ですすめる英語教育



本日お伝えすること

① 外国語教育の現状を知る

- ・生徒の英語力について
- ・全国学力・学習状況調査の結果より

② 外国語教育に係る取組を充実させる

- ・令和8年度全国学力・学習状況調査について
- ・MEXCBTの活用について
- ・AI等のデジタル技術の活用

③ 指導の質を向上させる

- ・中学校外国語で求めていること
- ・小学校外国語活動・外国語科、高等学校外国語科
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・グループ協議
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点における指導の在り方

令和8年度全国学力・学習状況調査について

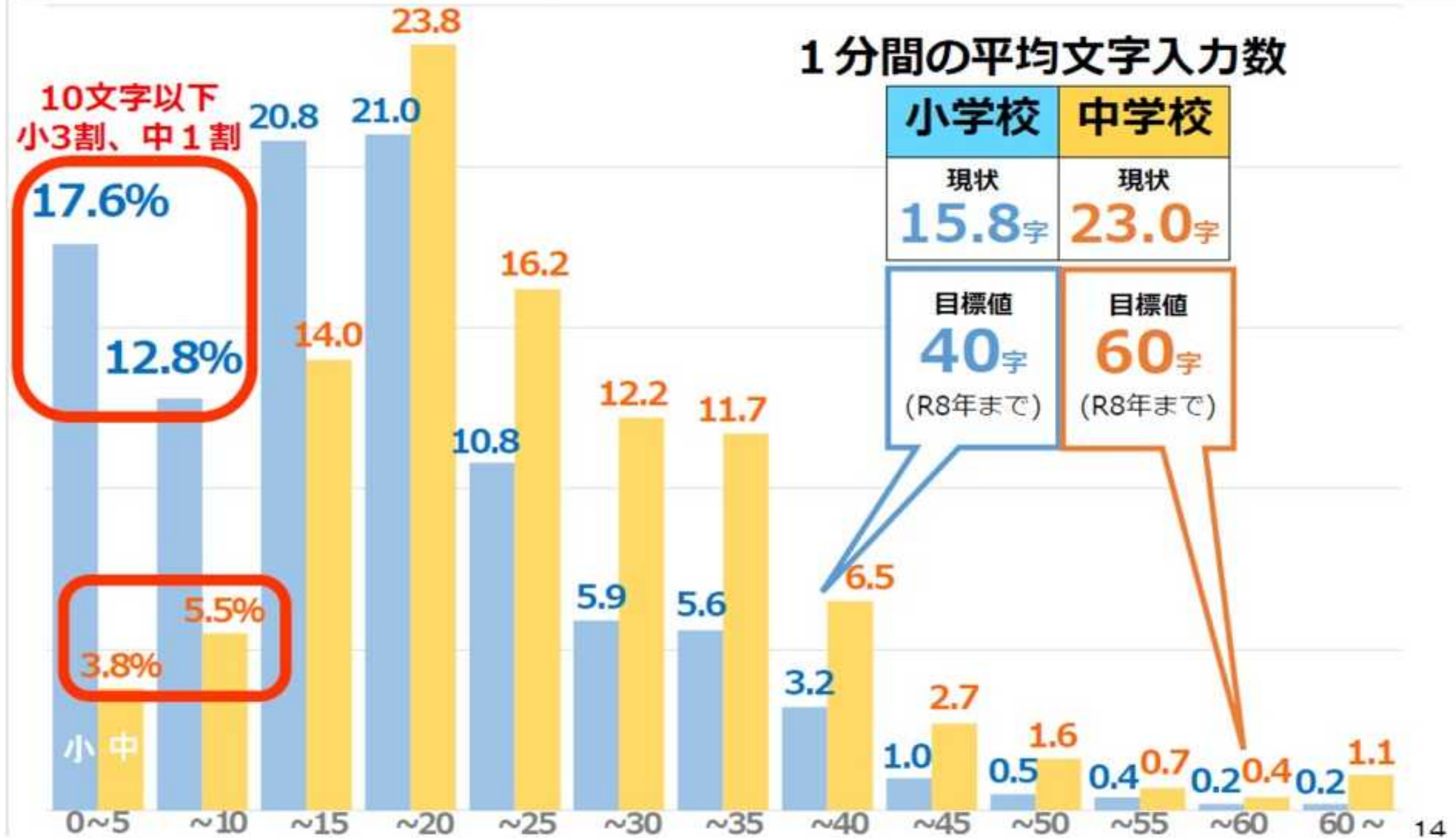
Ⅳ 令和8年度以降の悉皆調査においてCBTで実施する教科について

1. 中学校の教科調査のCBT化について

- 令和8年度悉皆調査では、中学校調査のうち英語のみCBTで実施。
「聞くこと」「話すこと」をまとめて最大50分、「読むこと」「書くこと」をまとめて最大50分とする。
 - ・英語は3年に1回程度の実施としており、データ収集の機会が限られるため、国語・数学よりも、1回の調査でより多くのデータを収集する必要性が高い。
 - ・令和5年度悉皆調査において、英語「話すこと」調査を、1人1台端末等を用い、MEXCBTを活用したオンライン方式により既に実施しており、英語の全面CBT移行に向けても、蓄積された実績を活用することができる。
- 国語・数学は「調査基準日」に、冊子を用いた筆記方式（PBT）で一斉実施し、英語は4～5日間で分散してCBTで実施。
- 国語・数学の全問題と英語の公開問題及びそれらの正答例等は、調査基準日に公表。
- 中学校英語の実施日は**学校単位で同一**とし、ネットワーク負荷軽減のために日時を適切に分散する観点から、各教育委員会・学校の都合を踏まえて、文部科学省にて決定。
- 中学校の生徒質問調査は、英語の実施日に実施。
- **中学校英語に関する結果返却・公表についてはIRTに基づいて算出されたスコアをベースに行う。**
- **令和9年度以降、CBTに全面移行**することとする。
- なお、生徒や教師が端末を用いた調査に円滑に移行できるよう、各学校においてサンプル問題にMEXCBT上で取り組めるような環境を整備する方向で検討する。

情報技術を使う力が十分ではない (タイピング文字入力)

情活調査



【グラフ出所】令和3年度情報活用能力調査（文部科学省）結果より作成。【目標値出所】「教育DXに係る当面のKPI（R6.4.22デジタル行財政改革会議）」

教育課程部会 教育課程企画特別部会（第7回）配付資料【資料1-1】論点資料⑥情報活用能力の抜本的向上（デジタル化社会の負の側面への対応を含む）

目 的

- ◎ 英語 4 技能をバランスよく育成するために、特に課題となっている**「話すこと」「書くこと」の力の強化**に向けて、CBT問題を活用して、児童生徒の個別最適な学びや教師の指導の充実に支援。
- ・ **MEXCBT（文部科学省CBTシステム）**に、「話すこと」「書くこと」を中心としたCBT問題を搭載。
- ・ 各CBT問題を、国際標準である**CEFR（※1）レベルと紐づけ（※2）**。
 - （※1）ヨーロッパ言語共通参照枠。第4期教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）において、中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上、高等学校卒業段階でCEFR A2レベル相当以上を達成した中高生の割合を6割以上にすることなどを指標。
 - （※2）外部検定試験のように、CEFRレベルを認定するものではない。

特徴

問題 教師は、**技能やCEFRレベル**（CEFR A1未満～B2レベル相当）**ごとに問題の選択が可能。**

問題 **多彩なテーマや題材から問題の選択が可能。**

題材例：自分の好きなもの、身の回りの物事、自然科学、歴史 など

解答・解説 **解答内容に応じてCEFRレベルの把握が可能。**

解答・解説 **学習のアドバイスを参考に、学習に役立てることが可能。**

MEXCBTを活用した英語「話すこと」「書くこと」の力の強化に向けた活用イメージ

「話すこと」問題（画面イメージ）



録音は2回まで可能

自分の解答音声を再生して聞くことが可能

「話すこと」解答・解説（画面イメージ）



英語を学習している、世界の子供たちの解答例を音声で聞くことが可能

「書くこと」問題（画面イメージ）



「書くこと」解答・解説（画面イメージ）



教科から選ぶ		問題の種類から選ぶ	
問題の種類 ※必須	文部科学省_英語学習問題 ▼	形式 ※必須	☒ 複数問題形式 ☐ 一問一答形式
学年	▼	教科	外国語（英語） ▼
級	▼		
タイトル	フリーワードで検索 例：令和3年度		
リセット		検索	

問題一覧

全50件

問題を選択し『選択した問題を確認』ボタンを押してください（選択できる問題は1個までとなります）

	No.	タイトル	教科 学年	科目	問題情報	解説情報	詳細
☐	1	【MEXT 英語】 2_1「聞くこと」（CEFR A2・B1・B2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	2	【MEXT 英語】 1_2「聞くこと」（CEFR A1未満・A1・A2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	3	【MEXT 英語】 1_1「聞くこと」（CEFR A1未満・A1・A2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	4	【MEXT 英語】 2_2「読むこと」（CEFR A2・B1・B2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	5	【MEXT 英語】 2_1「読むこと」（CEFR A2・B1・B2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	6	【MEXT 英語】 1_3「読むこと」（CEFR A1未満・A1・A2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	7	【MEXT 英語】 1_2「読むこと」（CEFR A1未満・A1・A2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	8	【MEXT 英語】 1_1「読むこと」（CEFR A1未満・A1・A2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	9	【MEXT 英語】 2_9「書くこと」（CEFR A2・B1・B2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	10	【MEXT 英語】 2_8「書くこと」（CEFR A2・B1・B2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	11	【MEXT 英語】 2_7「書くこと」（CEFR A2・B1・B2相当）	外国語（英語） 共通				詳細
☐	12	【MEXT 英語】 2_6「書くこと」（CEFR A2・B1・B2相当）	外国語（英語） 共通				詳細

MEXCBT活用事例



茨城県での活用はこれだ！

【授業での活用場面】



【放課後学習の場面】



■授業時における協働的な学びを生かした取組

【学年・実施時期】中学2年生 11月

【単元の目標】書くこと(イ) ※学習指導要領の目標

【活用方法】単元内の学習の一端としてMEXCBT

(書くこと2_4)を活用

※単元末に別途パフォーマンステスト実施

①配信された課題を個人で解答

②言語面について生成AIで確認

③内容面についてペアやグループで確認

④英作文の推敲・再構成 → 提出

後日、パフォーマンステスト実施(CBT)

■放課後学習における個別最適な学びの取組

(放課後学習…教育課程外に設定 冬季に週1回30分間実施)

【学年・実施時期】中学2年生 12月

【活用方法】①教師が基礎問題、発展問題を配信

②各自選択し解答(自分のCEFRレベル)

※県で実施しているアセスメントテストを参考

③振り返りをワークシートに記入

(解答状況、使用した表現など)

④再挑戦(家庭での学習含む)

生徒の声・反応

「MEXCBTは英語学習に効果的であった」と回答した生徒の割合 (中学2年生 101名)

時期	11月	12月	1月
%	37.5	62.5	93.6

- 簡単な問題から難しい問題まであるので、家庭学習でも使える。
- 自分の実力にあった問題ができるから良い。
- 何度もチャレンジできるところが良い。
- 正答か誤答かの判定やフィードバックがないため、生成AIを活用し自分の英文を確認した。

教師の声・反応

・単元の学習内容とMEXCBTとの関連を重視して、中学2年生を対象に主に書くことに取り組んだ。

学年・単元名(主な文法事項)	活用できるMEXCBT問題例
Unit5 Universal Design	書くこと1_1、1_2
Stage Activity3	書くこと2_5

・問題の難易度が幅広いので、外部検定試験の受験対策にも効果的である。英検準2級(2級)を受験予定の生徒がCEFR A2レベルの問題に取り組んでいた。

教育委員会・学校で行った工夫が効いた！

MEXCBTの仕組みや使用方法、搭載された問題等が分からない。

MEXCBTを授業中や家庭学習等で、どう活用することが効果的なのか分からない。

令和8年度全国学力・学習状況調査がCBT形式で実施される。MEXCBTを活用して何か手を打てないだろうか。

MEXCBTについて理解してもらう機会の創出

- ・研修会の開催(県教育研修センター、各自治体)
- ・教育事務所担当者アカウント付与→学校訪問で実演

好事例を広く周知(オンラインでの呼びかけを含む)

・指導主事向け研修会

・英語教員向け研修会

令和8年度全国学力・学習状況調査に向けた取組

・CBTによる定期テスト問題の参考例として周知

・各研修会でCBT問題の活用に向けた協議



埼玉県での活用はこれだ！

話すこと【発表】と書くことの領域を統合し、発信力の向上を目指す取組(中学2,3年生)

STEP1【話すこと 1回目】

- ・実際に録音しながら、話すことの問題1-1(全6問)に取り組む。
- ・解説を読んで、分からないことなどを生徒同士で話し合う。

活動の振り返りで、「モデルアンサーのように、1文を加えて答えられるようにしたい!」という生徒の声が多かった。

(次時より)

- ・常活動として、搭載問題を活用して1問ずつ、話す活動としてPicture Descriptionを行う。

【話すことに取り組む場面】

内容面を中心に指導する。

STEP2【書くこと】

- ・常活動として、書くことの問題1-1(全10問)の絵を使って、毎時間1,2問ずつPicture Descriptionを行う。2年生は、授業中に話す活動を行い、家庭学習で英文を書き、学習支援ソフトを使って提出する。3年生は、授業中に話す活動から書く活動まで行う。

内容面と言語面から振り返り、指導する。

- ・(家庭学習)授業の常活動で7時間かけて全10問に取り組んだ後に、書く活動として個人で問題(1-1)に取り組む。

STEP3【話すこと 2回目】(STEP1から約1か月後)

- ・話すこと1-1に再度取り組む。(プラス1の文は、モデルアンサーと同じものでなくてもよい)
- ・(家庭学習)授業中に自分が録音した英文を書き取り、学習支援ソフト等を使って提出する。
- ・(後日、授業中)友達が書いた英文を読み合い、今後活用できる表現をメモに残しておく。

生徒の書いた英文で共通して見られた誤りについて、学級全体で指導、練習する。

生徒の声・反応

- ・質問の意味はわかって、答えるのが難しかったです。海外の人と話す時にこういう力はとても大切だと思うので、たくさん練習していきたい。
- ・正確な文法がすぐに出てこなかったり、単語が思い出せなかったりしました。対人ならジェスチャーなどで乗り越えられそうだけど、録音になると正確性が求められるので即興で話す練習がもっと必要だと思った。
- ・4技能の問題があるのはとてもありがたい。特に「話すこと」について、対人で会話する機会はもちろん、パソコンに向かって話す機会を増やしていくことで英語力が磨かれると思う。
- ・日頃からスモールトークなどを実施しているので、1回目から3年生はかなり積極的に取り組んでいた様子がある。2年生にはまだ、レベルが高いと感じた。

教師の声・反応

教育委員会・学校で行った工夫が効いた！

レベルの高い問題も多く、モデルアンサーが生徒の実感に合わない。

「読むこと」の問題に良問があるが、授業内での時間の確保が難しく、生徒の習熟の程度の差も心配である。

上述のように、時間をおいて、2回取り組ませることで生徒は成長を実感していた。問題をいきなり解くのではなく、学級で確認した後に取り組ませたり、生徒同士で話し合いを行わせたりしながら取り組んだ。

3年生の英語学習に関心の高い生徒から、たくさんの英文を読んでみたいという声があったので、いくつかの問題を指定し、読むことの問題に挑戦するよう助言した。休み時間に問題に関する疑問や質問などを尋ねたり、英文のトピックについてALTに意見を聞いたりする生徒の姿が見られた。

MEXCBT活用事例



山梨県での活用はこれだ！

【MEXCBT活用の場面】



①イラストについて
T-Sインタラクション



②個々で
解答を吹き込む
(書き込む)



③サンプルアンサー
を確認

■場面や状況を捉え、即興で話す力の向上を
目指す取組 「話すこと」(1_1・1_2)

帯活動における指導の流れ

①イラストについてT-Sインタラクション

- ・学級全体で、イラストからわかることや想像できることについてやり取りする。
- ・生徒とやり取りをしながら、考えや表現を引き出したり、正確性に気付くよう促したりする。

②個々で解答を吹き込む(書き込む)

- ・質問の主となる解答だけでなく、①でやり取りをしたことを基に、より詳しく話す(書く)ことを促す。
- ・問題によっては、イラストの説明だけでなく、自分の考えを加えることも可能であることを伝える。

③サンプルアンサーを確認

- ・自分の解答と比較し、気付きを促し、自己評価させる。
- ・その他の解答や付け足した情報について、共有する。

※家庭学習でも同じ問題に取り組み、定着、改善を図る。

生徒の声・反応

- ・どんなときでも「相手の状況などを考えて伝える」ということを意識するようになった。
- ・自分が今どれくらいの英語が書けるか、話せるか知ることができ、自分の英語をブラッシュアップしたと思った。
- ・時間制限があるので、最初は焦ったけど、その場で考えて話せるようになった、と思うようになった。
- ・サンプルアンサーに解説がついているので、今までより、主語や動詞、前置詞などに気を付けるようになったし、気が付けることも増えた気がする。

教師の声・反応

- ・ただイラストの説明を生徒と考えるのではなく、やり取りを通して、絵や写真から想像できる「場面・状況」を考えることで、生徒の発話内容が充実していった。
- ・パフォーマンステストでの場面設定や状況を意識して取り組む生徒が増えた。
- ・時間制限が即興性を意識させるきっかけにもなった。
- ・振り返りの視点やサンプルアンサー以外の解答例の提示に苦労したが、自己調整力の向上につながる教材として活用できる。

教育委員会・学校で行った工夫が効いた！

そもそも、MEXCBTの使い方がわからない・・・配信の仕方、問題の選び方等

「話すこと」「書くこと」は自動採点されない・・・振り返りや評価はどうすればよい？

言語活動にどうつなげればいいのか・・・

・オンラインでの研修会で、問題の配信方法や、文科省提供問題の紹介。外部試験スコア等との紐づけや、帯活動での活用方法を提案。

・サンプルアンサーを振り返りの視点とするよう指導・助言。
・学習支援ツールで自己評価、進捗、振り返り等を共有。
・生成AI等を活用した添削の仕方を提案。

・使うことが目的ではなく、生徒の実態、単元の言語材料や題材等に応じて、練習に用いたり、パフォーマンステストに用いたりする言語活動の充実に向けた手段として提案。

別添資料① 帯活動としての活用例(抜粋)

…山梨県教育委員会作成

「話すこと」1_1・1_2 の活用例を提案

帯活動として 活用例

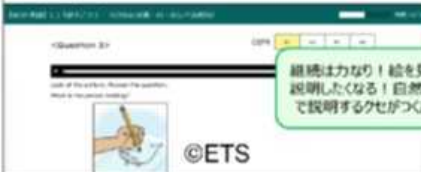


- ◆ 質問について、まずは生徒自身に考えさせましょう。
- ◆ 生徒とやり取りをしながら、考えや表現を引き出したり、正確さに気づくよう促したりしましょう。
- ◆ 文発話(文構造)の意識につなげましょう。

帯活動として 活用例



- ◆ 既得の知識・技能と関連付けて指導しましょう。
- ◆ 特に言語面の中間指導を意識して行い、正確性を高めましょう。



Day 1

What is the person doing?

Talking

Yes, they are talking.

Are they in a same place?

She is talking with ... by ...

They use phone.

They are talking on the phone.

Anything else?

I think the man and woman are her grandparents.

The girl use a smartphone.

Yeah, it's possible.

Nice idea. The girl uses her smartphone.

Now, let's record your answer. You don't have to answer only one sentence. You can say as many sentence as you can.

They are talking on the phone.

The girl look happy.

The girl is talking with her grandparents.

Day 2

What is the boy doing?

He writing ...

He has a paintbrush. So, ...

He is painting.

He has three brush.

What's 絵の具 in English?

Good. He is painting with his brushes.

You can say "paints."

Let's record!

Day 3

What is the person holding?

What is "holding"?

I'm holding a book in my hand.

So... he is holding a pencil.

He is painting a whale.

You know the word "whale." Nice! When we use a pencil, we say "write" or "draw."

MEXCBT活用事例

別添資料① 帯活動としての活用例（抜粋）

…山梨県教育委員会作成

「話すこと」1_1・1_2 の活用例を提案

帯活動として 活用例

2nd Round

What is the girl doing?

By Phone

She talking

Yes, she is talking on the phone.

She is talking with

Grandpa and grandma.

Nice idea. She is talking with her grandparents.

Now, let's record your answer.

She is talking on her smartphone.

The girl is talking with her grandparents.

Homework

授業での学びの振り返り

授業での学びの振り返り

◆ 2週目はQuestionを変えてみたり、家庭学習で取りませたりして、繰り返し取り組める機会を設定しましょう。

単元の言語活動につなげる

単元内の活動との連携・身に付けさせたい力（場面や状況を捉える力、即興で伝える力）の強化

- ・パフォーマンステストに取り組む際に、課題の**場面設定**や、**伝える相手の状況**等を捉えたり、推測させたりする。
- ・相手への配慮をルーブリック評価に記述し、「相手が～な状況だったら」「～かもしれない」など、より**相手に配慮**した内容になるよう思考・判断・表現させる。
- ・**相手意識**の向上につなげる。

パフォーマンステストで



教科書で



- ・教科書題材の導入で、教科書内のイラストや写真から、場面・状況をT-SインタラクションやS-Sのペアワークで**やり取りを通して**、推測する活動。
- ・推測したことを、本文内容から確かめたり、本文を読んでわかることから、情報を付け加えて説明したり、やり取りをする。

別添資料② 「話すこと」（1_1、1_2）の問題を扱った単元指導計画例

■ 学年・単元名・領域：

中学2年生 Unit 4 Homestay in the United States 「話すこと【発表】」

■ 単元末のパフォーマンス課題：

ALTは自分の娘さん将来ホームステイをさせたいと思っています。ALTの娘さんが安心してホームステイをすることができるように、チェックリストを作成してアドバイス動画を送ろう。

相手の背景は？心配事は何だろう？どんな情報があれば安心する？

○ 帯活動 ● 主な言語活動

1	○MEXCBT問題 「話すこと1_1(Question1)」 ●教科書本文全体の概要を、イラストや写真などをヒントに、教師とのやり取りを通して捉える。
2	○MEXCBT問題 「話すこと1_1(Question2・3)」 ●教科書の表現を引用しながら、アドバイスを読んでわかったことを伝え合う。
3	○MEXCBT問題 「話すこと1_1(Question4・5)」 ●教科書の表現を引用しながら、日本のhouse rulesについて伝え合う。
4	○Small Talk “Do you want to do a homestay?” ●教科書本文を読んで、登場人物の悩みについて、アドバイスを考え伝え合う。
5	○Small Talk “Are there any school rules?” ●教科書の表現を引用しながら、日本にホームステイに来る人へのアドバイスを考え伝え合う。
6	○Small Talk “Are there any house rules?” ●教科書の登場人物のホームステイ体験を読んで、学んだことや感じたことを伝え合う。
7	○Small Talk “What is important in a homestay?” ●パフォーマンス課題に取り組む。
8	●チェックリストとアドバイスを、クラスで共有し、友だちと読み合い、相互にコメントし合う。

帯活動における指導の流れ

①イラストについてT-Sインタラクション	・イラストからわかることや想像できることについて、やり取りをしながら、表現を生徒から引き出す。 ・T-Sだけでなく、S-Sでも取り組ませる。
②個々で解答を吹き込む	・やり取りしたことをもとに、解答する。 ・+ 1文や、自分の考えを加えて解答する。
③サンプルアンサーを確認	・サンプルアンサーと自分の解答と比較する。 ・その他の解答や、生徒からの気づきを全体で共有する。

☆教科書題材、本文の導入時にも、イラスト等からわかることをやり取りして、推測したり、場面や状況を捉えて表現する活動に取り組む。

MEXCBT活用事例



岡山県での活用はこれだ！

■生徒の自己調整力を高めるための取組

教師は「話すこと」(1_1、1_2、1_3、2_1、2_2)の問題を5問配信し、生徒が自分の英語力に応じて、適切な問題を選択して取り組めるようにした。右図のワークシートで自己評価等を行なった後、再度問題に取り組ませた。

生徒はサンプルアンサーと自分の解答を比較し、改善点を見つけて自身の表現を見直すことで、自己評価を軸とした学習改善サイクルを循環させていた。

■生徒が自分の考えなどを形成し再構築するための取組

事前学習として家庭で、「話すこと」(2_1、2_2)に取り組ませ、その内容と関連するテーマで授業中にやり取りを行わせることで、家庭学習と授業とのつながりを持たせた。

生徒はサンプルアンサーの英文や解説を参考にし、意見を述べる際に「比較」「考察」「例示」等の視点をもつことの重要性を理解するとともに、主張を支える根拠や情報を整理し、自分の考えを形成、再構築する機会とした。



【ワークシート：自己調整力の育成】

STEP 1 [自己評価]
サンプルアンサーと自分の解答を比較し、自分の表現を見直す。
自分の表現が正しいか、どうすればよくなるかを記入する。
(自分の表現が正しい場合) ☐ 正しい
(自分の表現が正しい場合) ☐ 正しい

STEP 2 [見直し]
自分の表現を見直し、改善点を見つける。
自分の表現を見直し、改善点を見つける。
(自分の表現を見直し、改善点を見つける) ☐ 正しい
(自分の表現を見直し、改善点を見つける) ☐ 正しい

STEP 3 [評価]
自分の表現を見直し、改善点を見つける。
自分の表現を見直し、改善点を見つける。
(自分の表現を見直し、改善点を見つける) ☐ 正しい
(自分の表現を見直し、改善点を見つける) ☐ 正しい

STEP 4 [振り返り]
自分の表現を見直し、改善点を見つける。
自分の表現を見直し、改善点を見つける。
(自分の表現を見直し、改善点を見つける) ☐ 正しい
(自分の表現を見直し、改善点を見つける) ☐ 正しい

【やり取りにおける活用】



(岡山県立岡山操山中学校の取組から)



香川県での活用はこれだ！

【導入場面で個別に問題に取り組むようす】



■帯活動としての取組

対象：中学1年生
期間：2学期(9～12月)
場面：授業の導入時
目的：既習の言語材料(現在進行形)の定着を図る
具 体：授業の帯活動として、MEXCBT問題の「1_1 聞くこと」、「1_1 読むこと」、「1_1 話すこと」、「1_1 書くこと」から毎時間1つずつ選択して取り組む

活用方法

- ① 1 回目は、聞→読→話→書の順で、全員が同じ問題に取り組み、スコアを記録
- ② 教師は、生徒の振り返りシート及び解答結果を確認
- ③ 教師は、多くの生徒に共通するエラーを全体共有
- ④ 2 回目は、個の課題に応じた問題を選択して取り組み、スコアを記録
- ⑤ 生徒は自身のスコアを比較し、どのような対策(学習)によってスコアが伸びた(停滞している)のかを記入
- ⑥ 教師は変容を見取り、個または全体へフィードバック

○生徒、●教師



生徒の声・反応

- ・家庭で英語を話す相手がいないでも、英会話の練習ができるのが嬉しかった。
- ・サンプルアンサーの英文は難しく正直よくわからなかったが、解説を読んで、自分の発言において「比較」や「考察」ができていないことに気が付いた。
- ・言いたいことを英語で言えない時に、前よりも別の言葉でうまく言い換えられるようになった。
- ・繰り返し学習することで、話す内容がある程度頭に入ってきて、考えを伝えやすくなった。



教師の声・反応

- ・「自己採点」「自己調整」「自分のための学習」の視点で考えた時、本取組は生徒が自分で学びを進める力の向上に有効であった。
- ・サンプルアンサーから生徒の表現の幅が広まり、語彙力が高まっていると実感した。
- ・問いに対する答え方をサンプルアンサーを通じて学び、どのような内容や構成で伝えるべきかを考える機会となっていた。
- ・どの生徒も2回目に大幅に点数が伸びていた。



生徒の声・反応

- 正解になると嬉しいので、2 回目は前回よりも良いスコアが取りたいと思うようになった。
- リード文が英語だったので、最初は戸惑ったが、回数を重ねるごとにスムーズに読めるようになった。
- speakingやwritingの問題では、正解かどうか判断が難しい問題があった。
- 1 問進むごとに解答と解説が表示されるが、1 回目はきちんと読んでいなかったで、2 回目も同じ問題で間違えてしまった。振り返りシートには、解説の内容もメモをとるように工夫したい。



教師の声・反応

- 生徒はスコア判定を励みに、意欲的に取り組んだ。
- 実施日で一括検索ができ、個人のスコアや平均スコアを見ることができたので、指導の参考になった。
- 記述式問題では、複数の解答例が示されないものがあるため、解説を読んで、自分の英文が正しいか判断する力が必要である。判断に困っている生徒には、個別に指導した。
- 家庭学習でMEXCBTを活用するには、生徒が自走できるだけの英語力が必要と感じた。今回は、授業内で配信課題に取り組む活動に留まった。



教育委員会・学校で行った工夫が効いた！

採点機能がないため、サンプルアンサーだけではどの程度話せば「おおむね満足できる」状況かを判断するのが難しい。

「話すこと」(1_1、1_2)では、解答が短いためほぼサンプルアンサーの暗記のような活動になってしまう。

採点することを活用の目的とするのではなく、サンプルアンサーと自分の解答を比較することで改善点を見つけ、表現を見直すことで、自己評価を軸にした自己調整力を高めるツールとして活用を推進する。

「Make an original story」とすることで、単文ではなく、まとまりのある英文を伝える活動になる。例：「なぜ自転車に乗っているのか。」「これからどこに行こうとしているのか。」「など、複数文で絵を説明する。



教育委員会・学校で行った工夫が効いた！

言語活動と関連付けて効果的に活用したいが、搭載問題を確認するための時間の確保が難しい。

生徒自身がよりよい学習方法を見出し、端末を用いて自学自習ができるように工夫したい。

【県教育委員会】 MEXCBT問題の早見表を作成し、学校へ提示した。(項目例) 領域及びCEFRレベル、英検級レベル、設問数、所要時間、問題の形式、主な言語材料など【別添資料①参照】

【学校】 振り返りシートを活用し、同じ問題に繰り返し取り組むことで、生徒が自己の変容を実感できるように工夫した。エラーの内容、スコアの伸び等についても振り返るよう促した。【別添資料②参照】

【学校】 全体的に間違いの多かったMEXCBT問題に類似したイラストや教科書の既習ページのイラストを用いて、Picture Descriptionを取り入れた。練習する場面を確保して、2 回目の実施に臨んだ。

MEXCBT活用事例

別添資料① MEXCBT問題早見表（一部）

問題	領域及びCEFR Lv.	英検級Lv.	設問数	所要時間(分)	形式	主な言語材料等	その他
【MEXT 英語】	1.1「聞くこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	4	10	一問一答	現在／過去進行形、一般動詞過去形、bring 人もの、tell 人 to do	
【MEXT 英語】	1.2「聞くこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	4	10	まとまりのある文	不定詞、look 形容詞、think that、関係代名詞	語彙やや難解
【MEXT 英語】	1.1「話すこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	5	15	一問一答	現在進行形(What is ○○ doing?)	
【MEXT 英語】	1.2「話すこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	5	15	一問一答	現在進行形(What is ○○ like ...?), 疑問詞	place(名)、point(動)使用
【MEXT 英語】	1.3「話すこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	5	20	一問一答	不定詞の名詞的用法、動名詞、because、when、make O C	好きなものや理由を述べる
【MEXT 英語】	1.1「読むこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	6	10	一問一答	天気、現在進行形、場所を表す前置詞	above、drop(落とす)使用
【MEXT 英語】	1.2「読むこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	3	30	まとまりのある文	時間内に表示された英文(アナウンス)を音読する	語彙やや難解
【MEXT 英語】	1.3「読むこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	3	30	まとまりのある文	時間内に表示された英文(パッセージ)を音読する	語彙やや難解
【MEXT 英語】	1.1「書くこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	10	25	単語の空所補充	3単現、現在進行形、不定詞の副詞的用法(最後の1問のみ)	文字数指定問題もあり
【MEXT 英語】	1.2「書くこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	5	20	単語の並び替え	現在進行形、fill with、make a turn	favorite(名)使用
【MEXT 英語】	1.3「書くこと」 (CEFR A1未満・A1・A2相当)	4-Pre2	5	20	英作文	現在進行形	

個別最適な学び

英語力の
より客観的な把握

多彩なテーマや題材を
用いた授業づくり

別添資料② 振り返りシート（一例）

例

Task	Round	Date	Score	Reflection	Words & Phrases
1_1「話すこと」	1回目	9月20日	2/5	★どのような間違いをしたのか、後から読んで分かるように書きましょう。 ★2回目には、スコアを伸ばすために頑張ったことなどをメモしておきましょう。	hold 手に持っている daughter 娘
1_1「話すこと」	2回目	9月27日	4/5	テニスをしている人が2人いたが、He isと説明してしまった。 次はThey areを使って説明できるようにしたい。	
			/	主語を意識しながら説明するようにしたら、前回よりもスコアが伸びた。 paintingが出てこなかったため、書翰練習で復習したい。	paint 色をぬる
			/		
			/		

AI等のデジタル技術の活用

3. 生成AIの教育利用の方向性

(1) 基本的な考え方

- 学習指導要領は、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置づけ、情報技術を学習や日常生活に活用できるようにすることの重要性を強調している。このことを踏まえれば、新たな情報技術であり、（略）**どのように学びに活かしていくかという視点、近い将来使いこなすための力を意識的に育てていく姿勢は重要である。**
- その一方、生成AIは発展途上にあり、多大な利便性の反面、（略）**批判的思考力や創造性、学習意欲への影響等、様々な懸念も指摘されており、教育現場における活用に当たっては、児童生徒の発達の段階を十分に考慮する必要がある。**

(2) 生成AI活用の適否に関する暫定的な考え方

2. 活用が考えられる例

- ④**英会話の相手として活用したり、より自然な英語表現への改善や一人一人の興味関心に応じた単語リストや例文リストの作成に活用させること、**
（略）

文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」（令和5年7月4日）より抜粋

本日お伝えすること

① 外国語教育の現状を知る

- ・生徒の英語力について
- ・全国学力・学習状況調査の結果より

② 外国語教育に係る取組を充実させる

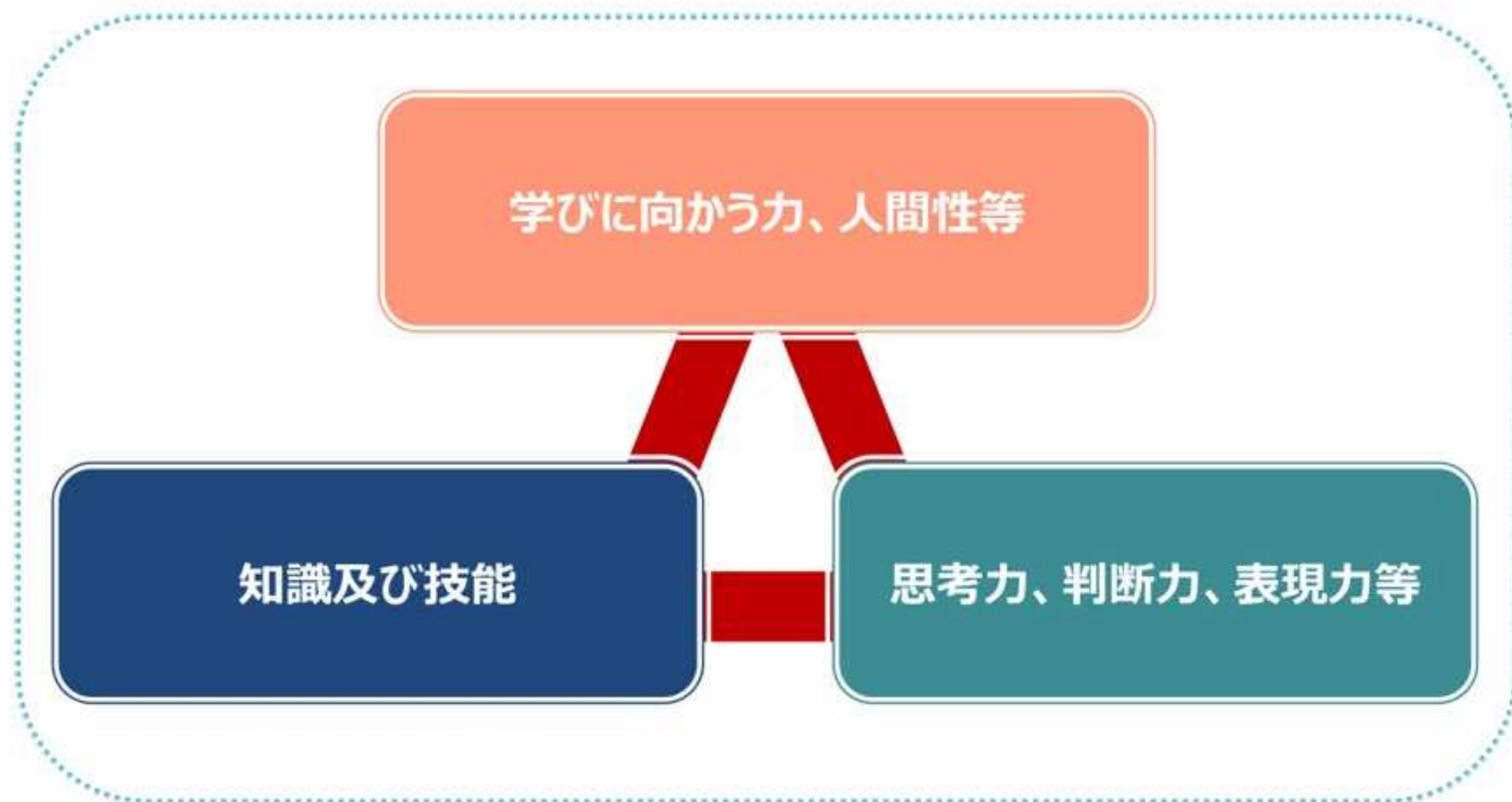
- ・令和8年度全国学力・学習状況調査について
- ・MEXCBTの活用について
- ・AI等のデジタル技術の活用

③ 指導の質を向上させる

- ・中学校外国語で求めていること
- ・小学校外国語活動・外国語科、高等学校外国語科
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・グループ協議
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点における指導の在り方

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

コミュニケーションを図る 資質・能力



中学校外国語科で育成する資質・能力

知識及び技能

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

知識及び技能

外国語の音声や語彙、表現、**文法**、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる **実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能** を身に付けるようにする。

- 
- **小学校で学習した語に
1600～1800語の新語** を加えた語
 - **文法事項**

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、
日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを **理解したり**、これらを活用して **表現したり伝え合ったりする** ことができる力を養う。



○ **日常的な話題** や **社会的な話題**

○ **領域を統合した活動**

- ①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、
- ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、
- ③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、
- ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、**聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら**、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。



- **五つの領域** にわたってコミュニケーションを図る資質・能力を **バランスよく育成**
- **領域を統合した活動**

小学校外国語活動

「言語活動を通して」育成がポイント

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

小学校外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学校

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

高等学校

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

「言語活動を通して」育成がポイント



学習指導要領における「言語活動」とは

言語活動は、「**実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど**」の活動を基本とする。

(『中学校学習指導要領解説外国語編』p.85)

言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、生徒が**言語活動の目的**や**言語の使用場面**を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その**目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用**できるようにすることが必要である。

(『中学校学習指導要領解説外国語編』p.55)

言語材料



「音声」、「符号」、「語、連語及び慣用表現」及び「文、文構造及び文法事項」

(『中学校学習指導要領解説外国語編』p.29)

「言語活動を通して」育成がポイント

言語活動

内容が先、英語が後

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、

必要な情報や考え
(必要な情報、概要、
要点) を捉えさせる
活動

受信
(聞く・読む)

考えなどを形成させ
(表現内容を考えさせ)
表現させる活動

発信
(話す・書く)

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編」より

発音練習、歌、英語の文字を機械的に書く⇒×言語活動
練習は、言語活動を成立させるために重要！
練習だけに終わらないように留意！

「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」より

学習指導における「授業を英語で行う」とは

外国語編

生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、**授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うこと**を基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。(『中学校学習指導要領解説外国語編』p.86)

生徒が授業の中で「**英語に触れる機会**」を最大限に確保することと、授業全体を英語を使った「**実際のコミュニケーションの場面**」とすることがねらい。

「**授業は英語で行うことを基本とする**」とは、生徒が日常生活で英語に触れる機会が限られ、**英語による言語活動を行うことを授業の中心に据えることを意味している。**

- 使う語句や文などを平易なもので言い直したり、繰り返したり具体的な例を提示したりする
- 生徒の分かる英語で話し掛ける
- 発話の速度や明瞭さを調整する
- 生徒と英語でやり取りを行う
- 既習の言語材料を用いながら教科書の内容を説明する等

教師の使用する英語は生徒にとって効果的なインプット

教師の積極的な英語使用に対する態度と行動が大きな影響

小学校の外国語活動・外国語科で求めていること

Point1 [外国語活動]

外国語活動は、高学年以降の外国語学習の動機付け
・身近で簡単な事柄について、音声で十分にコミュニケーションを図る

小学校外国語活動	小学校 外国語科
外国語を通して、<u>言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。</u> ・子供が興味・関心を抱く題材について十分に聞いたり話したりすることで、外国語(英語)の音声や表現に慣れ親しませることが大切である ・実際のコミュニケーションにおいて、既習の言語材料が活用できるよう、定着を求められているのではない	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、<u>読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</u>

小学校の外国語活動・外国語科で求めていること

Point2 [外国語]

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解する

小学校	中学校
文字	
文構造	文法
単文	重文・複文
日常生活に関する身近で簡単な事柄 ・意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れる (例)得意なものを紹介し合う活動 I am good at playing tennis. という表現に触れて、意味を把握したり、自ら活用したりする。 「代名詞」の用法や「動名詞」の用法について理解し、活用するのは中学校の段階	話題の広がり(日常的な話題・社会的な話題) 語彙の大幅増加 領域統合型の言語活動

Point3 [外国語]

外国語科では、音声で十分に慣れ親しんだ語彙や表現を読んだり、書いたりする

「令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査」の問題を見てみましょう



令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査より

「メモやパンフレットを読んで概要を捉えたり必要な情報を得たりすること」の問題例

外国語 第6学年「読むこと」 大問7(2)

○おすすめの国について書かれたパンフレットを読み、内容に合うイラストを選ぶ問題

・音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かることが必要。

7 マリア先生は、校内のある先生のリクエストにこたえて、おすすめする国のパンフレットを作っています。右のページのパンフレットを見て、(1)と(2)の問題に答えましょう。

【マリア先生が作っているパンフレット】



令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査より

(2) マリア先生は、★イラストの部分にパンフレットの内容に合うイラストを1つ加えて完成させることにしました。マリア先生が加えるとよいものを次の1から4の中から1つ選び、その数字を口の中に書きましょう。

【マリア先生が作っているパンフレット】



Australia

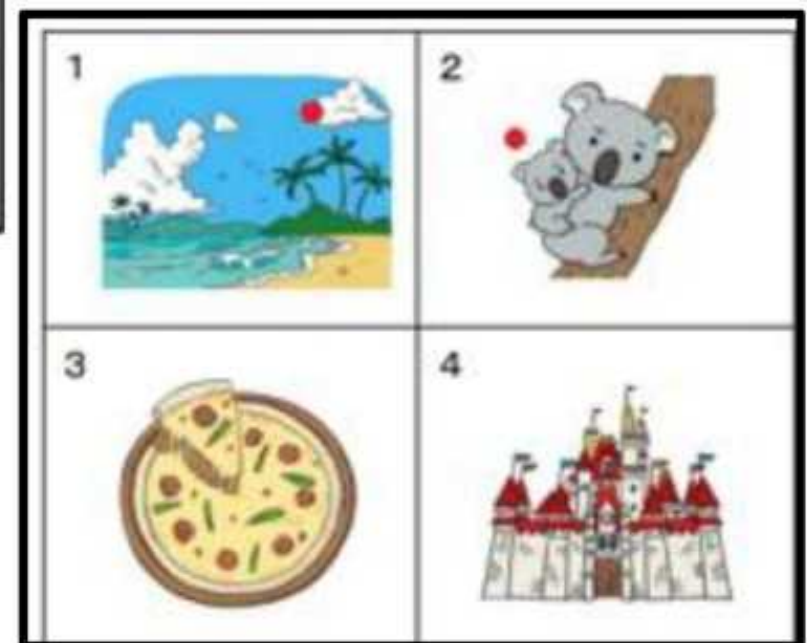


You can see kangaroos.
You can see koalas, too.
You can eat beef steak.
It's delicious.



★イラスト

【通過率86.6%】



令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査より

11 あなたの学校では、同じ中学校に進学するとなりの小学校と、自己しょうかいの手紙を交かんすることになりました。サキさんとケンタさんが書いた手紙を参考にして、あなたも次のことに気をつけて自己しょうかいの手紙を書きましょう。

【気をつけること】

- ・あなたのことを知ってもらえるように書きましょう。
- ・相手が読みやすいように、ていねいに書きましょう。
- ・配られた【ワードリスト】を参考にしてもかまいません。ただし、それ以外のものは使えません。

【ワードリスト】の例



令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査より



鈴木 サキ

Hello. I'm Saki.

I like P.E.

I can dance well.

Thank you.



石山 ケンタ

Hello. I'm Kenta.

I like curry and rice.

I'm good at cooking.

Thank you.



あなたのことについて、(1)と(2)は前に続けて書きましょう。
(3)は最初から書きましょう。

Hello. I'm (1).

(17)

I like (2).

(18)

(3).

(19)

Thank you.

(2)【通過率 99.0%】

(3)【通過率 79.5%】

高等学校の科目構成

五つの領域別の言語活動及び領域を結びつけた

統合的な言語活動を通して

五つの領域※の総合的に扱う

※「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」

英語コミュニケーションⅠ(3単位)

必修修科目

- ・中学校における学習の確実な定着
- ・全ての文法事項を適切に取り扱う

英語コミュニケーションⅡ(4単位)

英語コミュニケーションⅢ(4単位)

三つの領域※を中心に

発信能力を育成

※「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」

論理・表現Ⅰ(2単位)

論理・表現Ⅱ(2単位)

論理・表現Ⅲ(2単位)

・言語活動形式：

スピーチ、プレゼンテーション、
ディベート、ディスカッション、
一つまたは複数の段落から成る文章を書く

・論理の構成や展開を工夫

◎ 目標における3つのポイント

ポイント1

統合的な言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する

ポイント2

適切に活用できる / 的確に理解 / 適切に表現したり伝え合ったりする

ポイント3

主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

高等学校で育成をめざす資質・能力

第1款 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

ポイント 1 統合的な言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する

- ・ 複数の領域を結び付けて統合した言語活動を一層重視する。

第1款 目標（1）（知識及び技能「何を理解しているか、何ができるか」）

外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，・・・実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

ポイント 2 適切に活用できる

- ・ コミュニケーションを行うことによって達成しようとする際の目的や，話し手や聞き手を含む発話の場面， コミュニケーションを行う相手との関係性やコミュニケーションを行う際の環境などに応じて、適切な語彙や表現などを選択して活用するために必要な技能

高等学校で育成をめざす資質・能力

第1款 目標（2）（思考力，判断力，表現力等「理解していること・できることをどう使うか」）

◎コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，…情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

ポイント2 的確に理解 / 適切に表現したり伝え合ったりする

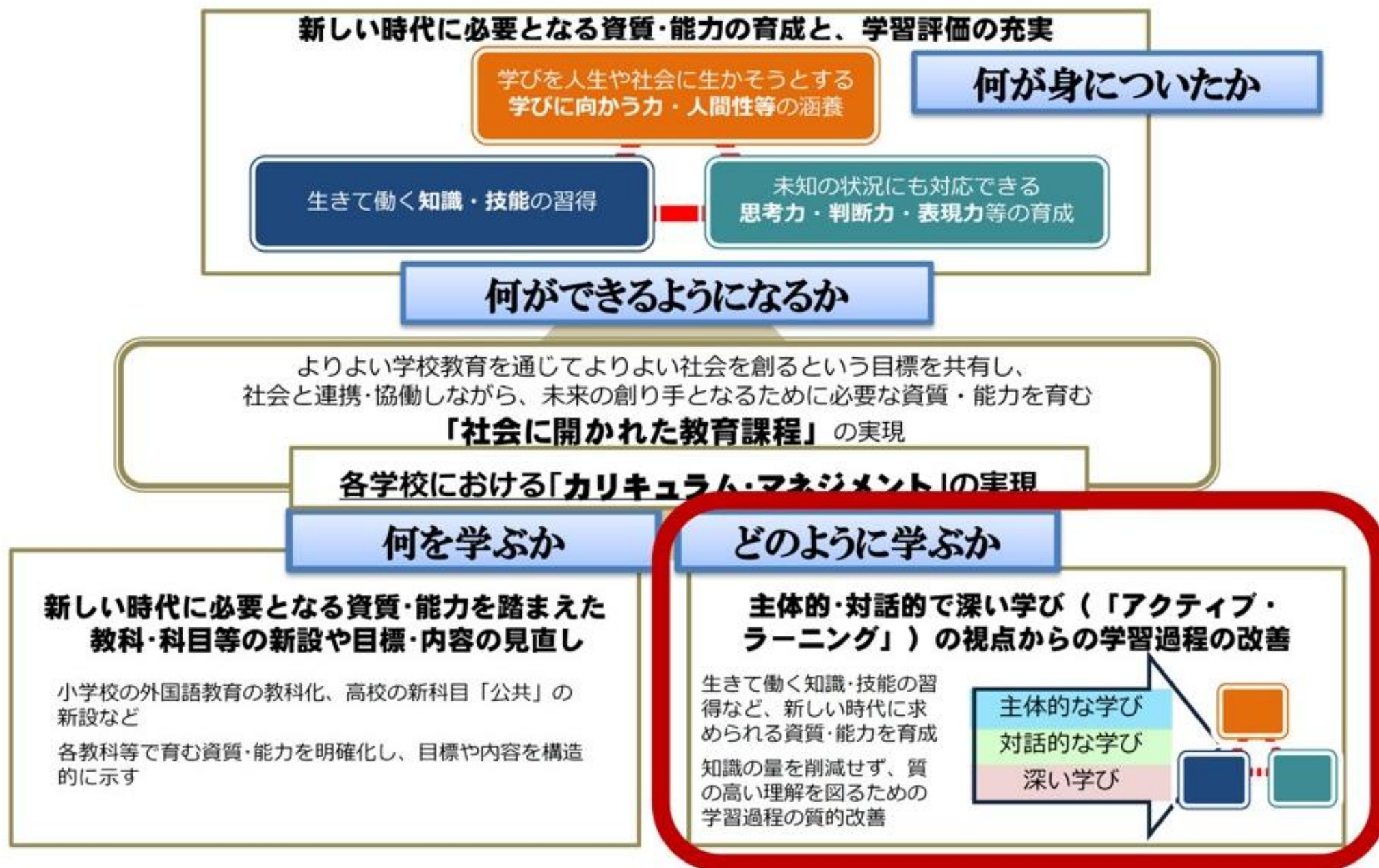
- ・ 何を聞き取るべきか、読み取るべき内容は何かなどを判断し、「聞くこと」や「読むこと」を通して情報や考えなどを整理すること
- ・ 何をどのように取り上げるかを既存の知識や体験などとも関連付けながら判断し、「話すこと」や「書くこと」を通して適切に表現したり伝え合ったりすること

第1款 目標（学びに向かう力，人間性等「どのように社会や世界と関わり，よりよい人生を送るか」）（3）

外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

ポイント3 主体的，自律的外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

- ・ 自分にはどのような力が足りないか，どのような学習が更に必要かなどを自ら考え，それぞれが授業での言語活動を充実させるための努力を授業外でも続けようとする自律的な態度。これにより，学校教育以外の場面においても，生涯にわたって外国語の習得に継続して取り組もうとするといった態度を養う



- ア 授業改善の捉え方
- イ 3つの視点で授業改善を進めること
- ウ 学習活動の質を向上させること
- エ 内容や時間のまとまりの中で実現を図ること
- オ 「見方・考え方」を働かせること
- カ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ること

イ 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業を進めるものであること。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにする。



【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。



学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養



生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。



【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。



「主体的な学び」の視点

- ・ 外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに **興味** や **関心** をもち、
- ・ 生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、 **学んだことを生かそう** とすることを意識しながら
- ・ コミュニケーションを行う **目的や場面、状況など** を理解して見通しをもって **粘り強く取り組み**
- ・ 自らの学習やコミュニケーションを **振り返り次の学習につなげる**



・ 単元など内容や時間のまとまりを見通した授業づくり

・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などの設定

・ 言語活動で扱う題材 ・ 課題設定

・ 学習の見通しを立てる場面の設定

・ 学習を振り返る場面の設定 など

「対話的な学び」の視点

表面的なやり取りのことではなく、他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、**自らの考えを広げたり深めたりする**



- ・単元など内容や時間のまとまりを見通した授業づくり
- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などの設定
- ・言語活動の充実
- ・言語活動を通した指導（内容面）
- ・言語活動を通した指導（言語面）など

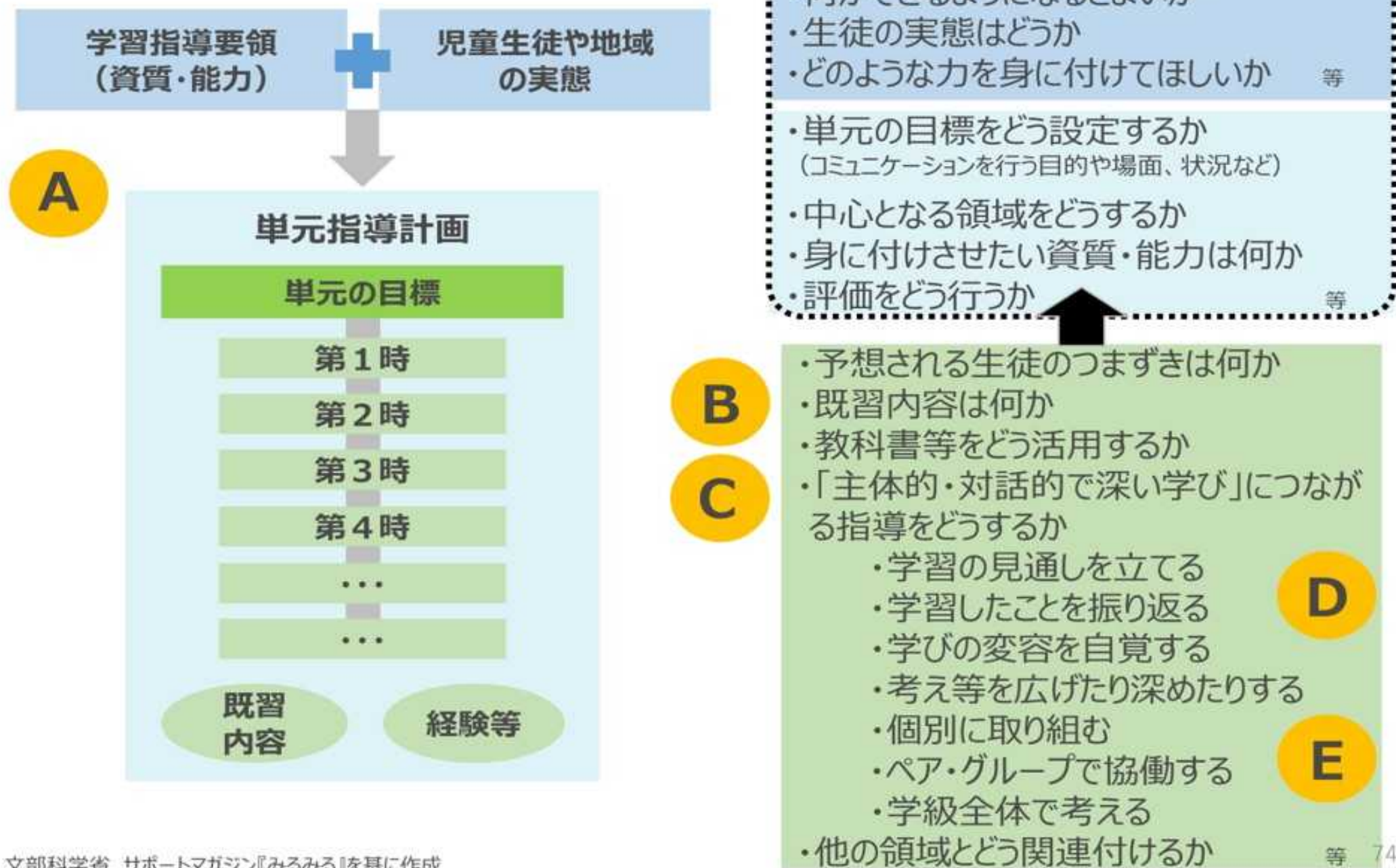
「深い学び」の視点

- ・ **コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて思考力、判断力、表現力等を発揮する中で、言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声、語彙・表現、文法の **知識がさらに深まり**、それらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて実際のコミュニケーションで運用する **技能がより確実なもの** となるようにし、**
- ・ 深い理解と確実な技能に支えられて、外国語教育において育まれる「**見方・考え方**」を働かせて **思考・判断・表現する力が活用される** ようにする



- ・ 単元など内容や時間のまとまりを見通した授業づくり
- ・ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などの設定
- ・ 言語活動の充実
- ・ ICTを活用する場面の設定
- ・ 言語活動を通した指導（内容面）
- ・ 言語活動を通した指導（言語面）
- など

「主体的・対話的で深い学び」の視点における指導の在り方



文部科学省 サポートマガジン『みるみる』を基に作成

ア **単元など内容や時間のまとまり**を見通して、
その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の
主体的・対話的で深い学びの実現を図るように
すること。その際、具体的な課題等を設定し、
生徒が外国語によるコミュニケーションにおける
見方・考え方を働かせながら、**コミュニケーションの
目的や場面、状況など**を意識して活動を行い、
英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの
領域における実際のコミュニケーションにおいて
活用する **学習の充実を図る** こと。

令和5年度全国学力・学習状況調査 事例4 第3学年の実践

■単元目標：

身近な環境問題を解決するためにできることについてまとめるために、環境を守る取組や様々な立場の人の考えを聞き、その内容を基にして、自分の考えと理由を話すことができる。

時	主な学習内容 (■目標、①②言語活動)
1	■単元の目標を理解し、見通しをもつ。 ①環境問題について知っていることについてやり取りをする。 ②<u>プラスチックゴミ問題について、教師の考えを聞き、自分の考えを話す。</u>
2	■環境問題を解決しようとしている人々の取組に対する考え(その1)を聞き、要点を捉える。 ①<u>プラスチックゴミ問題について、根拠を示しながら考えを示している発表を聞いて要点を捉える。</u> ②関係代名詞 (which, that) のきまりや使い方を理解する。
3	■<u>環境問題を解決しようとしている人々の取組に対する考え(その1)を聞き、その内容を基に自分の考えと理由を話す。</u> ①教科書の要点を確認した後、賛否を述べる表現を共有し、互いの考えを述べ合う。
4	■<u>環境問題を解決しようとしている人々の取組に対する考え(その2)を聞き、その内容を基に自分の考えと理由を話す。</u> ①プラスチックゴミを削減する外国の取組に対する考えを聞き、メモを取りながら要点を捉える。 ②①で使用したメモに、感じたことや考えたことを書き加えて整理し、聞いたことを引用しながら考えを話す。
5	■<u>相手に納得してもらうために、プラスチック使用についてのALTの考えを聞き、その内容を基にして、自分の考えと理由を話す。</u> ①話し手の意見を聞き、要点を捉えた後、自分の考えと理由を整理する。 ②意見交換をし、自分の考えを再構築する。
6	■<u>身近な環境問題を解決するためにできることについてまとめるために、環境問題を解決しようと取り組んでいる人の話を聞いて分かったことを基にして、自分の考えと理由を話す。</u> ①環境問題への企業の取組について、3人の教科書の登場人物の考えを聞き、相手の考えに共感したり、未来のことを予想したりする視点を共有し、再度自分の考えを話す。 ②身近な環境問題を解決するためにできることをまとめる。

80

(略) 外国語で表現し伝え合うためには、
適切な言語材料を活用 し、
思考・判断して情報を整理する とともに、
自分の考えなどを形成、再構築する ことが
重要である

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編 第2章 第1節

- 
- (1) : 適切な言語材料を活用するための指導
(理解したり練習したりする活動を含む)
 - (2) : 思考・判断して情報を整理し自分の考えなどを形成し
再構築できるための指導

<協議の進め方>

1 グループ内で順番に実践を発表。

- ・1～3について実践例を含めて説明
- ・質疑応答

2 次の2点について協議し、まとめる。

- (1) 「内容面」における指導において重要なこと
- (2) 「言語面」における指導において重要なこと

3 全体共有

■単元目標：

※令和5年度全国学力・学習状況調査 事例4（第3学年の実践）

身近な環境問題を解決するためにできることについてまとめるために、環境を守る取組や様々な立場の人の考えを聞き、その内容を基にして、自分の考えと理由を話すことができる。

時	主な学習内容 (■目標、①②言語活動)
1	■単元の目標を理解し、見通しをもつ。 ①環境問題について知っていることについてやり取りをする。 ②プラスチックゴミ問題について、教師の考えを聞き、自分の考えを話す。
2	■環境問題を解決しようとしている人々の取組に対する考え(その1)を聞き、要点を捉える。 ①プラスチックゴミ問題について、根拠を示しながら考えを示している発表を聞いて要点を捉える。 ②関係代名詞 (which, that) のきまりや使い方を理解する。
3	■環境問題を解決しようとしている人々の取組に対する考え(その1)を聞き、その内容を基に自分の考えと理由を話す。 ①教科書の要点を確認した後、賛否を述べる表現を共有し、互いの考えを述べ合う。
4	■環境問題を解決しようとしている人々の取組に対する考え(その2)を聞き、その内容を基に自分の考えと理由を話す。 ①プラスチックゴミを削減する外国の取組に対する考えを聞き、メモを取りながら要点を捉える。 ②①で使用したメモに、感じたことや考えたことを書き加えて整理し、聞いたことを引用しながら考えを話す。
5	■相手に納得してもらうために、プラスチック使用についてのALTの考えを聞き、その内容を基にして、自分の考えと理由を話す。 ①話し手の意見を聞き、要点を捉えた後、自分の考えと理由を整理する。 ②意見交換をし、自分の考えを再構築する。
6	■身近な環境問題を解決するためにできることについてまとめるために、環境問題を解決しようと取り組んでいる人の話を聞いて分かったことを基にして、自分の考えと理由を話す。 ①環境問題への企業の取組について、3人の教科書の登場人物の考えを聞き、相手の考えに共感したり、未来のことを予想したりする視点を共有し、再度自分の考えを話す。 ②身近な環境問題を解決するためにできることをまとめる。

全体指導：生徒を指名し、ALTの意見に対する考えや理由を学級全体に共有する場面



I disagree. I have 3 reasons.
First, many people throw away plastic, so the city
become dirty. I have 1 question to Jeo (ALT).
Do you want to live dirty city?

Oh, dirty city.
Do I want to live in
a dirty city?
No, I don't.
I want a clean city.



ALT



It is good.
So I think it is bad.
... (意見は続く)

<生徒が書いたメモ>

keep using Plastic

agree ・ 丈夫な物も → 使える ・ 資源が → 減る ・ recycle 等 → 環境に良い ・ 紙やプラスチックの廃棄 → 減る	disagree ・ 綺麗に → 住みやすい ・ CO₂ 出 ・ 海洋生物 die
---	---

全体指導：生徒の発表と本時の課題を照らし合わせ、大切な視点を引き出す場面



JTE

What are the good points of their speeches?
We should think from this point (本時の課題).
How did they try to persuade?

Talking from the fact.



学級



JTE

Talking about the facts. Do you have your ideas?

They could talk logically.



学級



JTE

Try to talk logically.
Jeo, what did you think about their speeches?

全体指導：生徒の発表と本時の課題を照らし合わせ、大切な視点を引き出す場面

They brought **a good point that I didn't think about.**

For example, I didn't think about people throwing plastic bags in the sea harming the environment.

I thought the environment only meant where I live, not sea animals.

So that's a good point.



ALT



JTE

It's new, right?

Yeah, to me, yes.



ALT

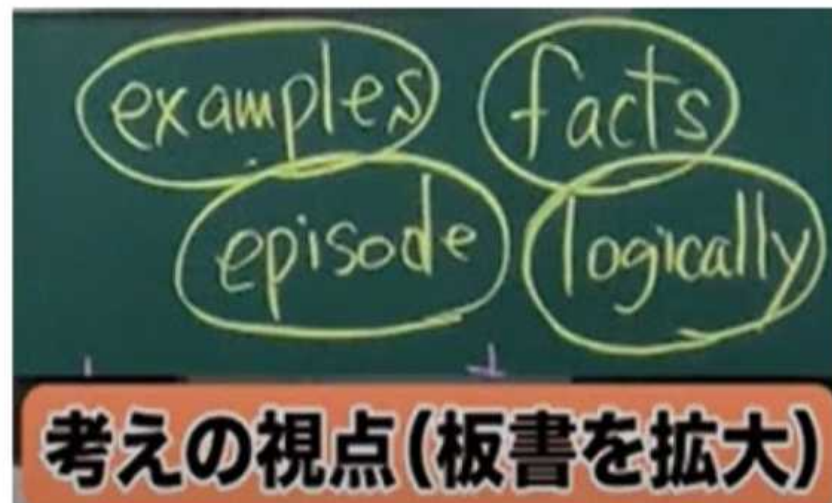
全体指導：再構築の視点をまとめる場面

ただ単に自分の考えを思いつくがままに言っているんじゃなくて、**「自分はこう思うよ」と言った後に、examples**であったり、**facts**であったり、**episode**も言っている人がいた。すごく上手。また It can't break down easily. のように**教科書から上手に引用してきている**ね。ゼロから創り出すんじゃなくて、どこかから引用するとか、誰かが言ったことを上手に真似していくということは大事だよっていつも伝えているよね。そういう点がすごくよかったから続けよう。

So try to build and organize your opinions again **from many other angles, examples, facts, episode, speak logically.** Keep trying to persuade.



JTE



大阪府貝塚市立二色学園

第7学年の実践

■ 単元名 : Research on Australia
(Sunshine 1 Program 7)

■ 単元目標 :

台湾の中学生たちが**楽しめる旅行プラン**を、
NETの先生にも紹介しながら
やり取りすることができる。

■ 本時の目標：第7時／8時間

台湾の中学生が日本に訪れたときのおすすめの旅行プランを企画し、台湾の中学生に説明すると想定して英語でやり取りできる。

- ①あいさつ
- ②本時の目標の推測（JTEとNETとのやり取り）
- ③ペアでShow and Tell（台湾の中学生におすすめできる場所）
- ④本時の目標の確認
- ⑤JTEとNETのモデルトーク
- ⑥ペアトーク
- ⑦全体指導
- ⑧BASE in OSAKA
- ⑨ライティング
- ⑩振り返り

全体指導：共通して誤りが見られた言語材料を取り上げて、誤りに気付かせる場面

(板書)

It's *takoyaki* and
okonomiyaki.
It's delicious.

(板書)

It's *takoyaki* **and**
okonomiyaki.
It's delicious.

What is wrong?



ALT

It's *takoyaki* **and**
okonomiyaki.
It's delicious?

あ～



学級

全体指導：共通して誤りが見られた言語材料を取り上げて、誤りに気付かせる場面

(板書)

It's *takoyaki* and
okonomiyaki.

It's delicious.

They're

They're ...



学級

Yes, that's right.

You can say like, they're delicious. Right?

Because *takoyaki* **and** *okonomiyaki*.

How would you make this sentence better?

You can say "these are *takoyaki* and *okonomiyaki*.

They're delicious. "



ALT

あ～



学級

93

全体指導：共通して誤りが見られた言語材料について練習する場面

(板書)

These are
It's *takoyaki* and
okonomiyaki.
It's delicious.
They're

Everybody, let's practice "These are *takoyaki* and *okonomiyaki*. They're delicious."



These are *takoyaki* and *okonomiyaki*.
They're delicious



実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す**言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと**。また、**小学校**第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を**繰り返し指導し定着を図ること**。

実際に英語を用いた言語活動を通して、小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)及び次に示す言語材料のうち、1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、**言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。**

エ

小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)のエ及び次に示す事項について、**意味のある文脈の中でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。**

エ 文法事項の指導に当たっては、次の事項に留意すること。

(ア)

英語の特質を理解させるために、**関連のある文法事項はまとめて整理するなど**、効果的な指導ができるよう工夫すること。

(イ)

文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、**コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上でその知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気付きを促したりするなど、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。**

外国語教育における学習過程

- ①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、
- ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、
コミュニケーションの見通しを立てる、
- ③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、
- ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う

中学校学習指導要領解説 外国語編 第2章 第1節 第1 目標(2)

ク

各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

中学校学習指導要領解説 外国語編 3(2)内容の取扱い

D 自身の学びや変容を自覚するための指導の工夫

中学校第1学年 外国語 「Welcome to ATAGO JHS!」

■単元目標

小学校6年生が安心して中学校に入学することができるように、「1日体験入学」の場で「愛宕中学校の魅力」について、伝える内容や構成、表現などを整理することを通して、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

■単元の概要

小学校6年生が中学校生活について知りたいことなどを把握し、伝えたい学校紹介の内容や構成、表現などについて考え、整理し、繰り返し練習する活動を行う。

■単元の指導計画（6時間）

第1時

「単元の見通しをもつ」

- ・小学生に「愛宕中学校の魅力」を英語で発表するという単元のゴールを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。
- ・JTEとALTが提示するモデルの内容や構成、表現などを確認する。

第2～4時

「小学生とのオンライン交流」

- ・小学生とやり取りをし、小学生の知りたい中学校生活の情報や興味・関心などを把握する。
- ・交流を生かして紹介したい内容や構成、表現などを考え、整理する。

「伝えたい内容と表現の再構築」

- ・友達とやり取りをして内容を深める。
- ・自身の発表をグループの仲間に聞いてもらったり、録画したりすることを通して、内容と表現を再構築する。

第5～6時

「Welcome to ATAGO JHS!」（1日体験入学）

■単位時間の概要

JTEとALT、2年生によるモデルを見ることで、単元目標とゴールイメージ、学習の進め方について見通しをもつ。提示されたモデルの内容や構成の工夫、表現などを確認する。

※クラウド上で、いつでも単元目標や学習の進め方等を確認することができる。

小学生と英語でオンライン交流をし、小学生の知りたい中学校生活の情報や興味・関心などを把握する。交流したことを基に、紹介したい内容をアイディア・マップにまとめクラウドで共有する。共有された友達の考えを参考にしながら、伝えたい内容を深めていく。

友達と何度も英語でやり取りしながら、伝えたい内容を深めていく。ある程度、発表したい内容がまとまったところで、グループの仲間に聞いてもらったり、自分で録画したりする。「小学校6年生が安心して中学に入学することができるような学校紹介になっているか」という視点で、友達やALTからアドバイスをもらったり、自身の発表内容や表現を確認したりして、再構築していく。

D 自身の学びや変容を自覚するための指導の工夫

■ 資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（第4時）

【学習活動の場面】

小学生の知りたい情報や興味・関心などを踏まえて紹介したい内容や構成、表現を考えてきた生徒は、「中学校生活に不安や期待を抱いている小学生が安心して入学できるように、分かりやすく伝えることが大切だ」との考えをもった。そこで教師は「自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えるために、相手意識を明確にしたシミュレーション（練習）を行い、発表に生かそう」と投げかけた。

【生徒の「深い学び」の姿】

Aは、次のような目標を立てた。

「愛宕中の先生方について、小学生とやり取りをしながら紹介することはできると思う。自分では『このくらいの英語で伝わるだろう』と思っているけれど、本当に伝わるのかが不安。いろんな友達と何回も練習したいし、発表内容や構成について意見を聞きたい。小学生が憧れてくれるような発表にしたい。」

Aは、クラウドで共有されているモデルと、前時までに撮影した自身の動画を比較し、発表内容を確認、修正、練習した。

▶確認の視点：小学生が聞きたいことについて、分かりやすく説明しているか（内容面）
相手に伝わる英語で表現できているか（言語面）

その後、Aは、学習グループの友達に複数回聞いてもらい、コメントをもらった。

Aは、改善点を整理し、再度練習に取り組み、ALTに発表した。

授業が終わった後、自分の発表を動画に残した。

「伝える順序を意識して発表することの良さに気付き、実際にやってみることができた。さらに分かりやすく伝えるためには、例を挙げるとよいと学んだ。何度も練習していきたい。」



【当該指導での「深い学び」】

Aは、小学生が安心して中学校に入学できるように分かりやすい発表にしようとする中で、クラウドで共有されているモデルと、自身の発表とを比較することで発表内容を確認、修正、練習をした。その後、友達にも何度も聞いてもらい、コメントをもらうことで、よくなったことやさらに改善するとよいところを明らかにし、発表内容をよりよいものにすることができた。

■ 指導上の工夫とICTの利活用

①生徒が、いつでも単元目標や学習の進め方、モデルを確認することができるようにする。

*クラウド上に目標やモデル等を用意することで、生徒は本来的な学習姿勢をいつでも確認することができる。また、困ったときにはいつでも参考にすることができる。

②生徒が、発表内容を再構築できるように、クラウドで共有したモデルと、自身の発表とを比較する場を設ける。

*内容面と言語面における確認の視点をもたせ既習事項と関連付けて指導することで、本単元で目指す姿に近付けることができる。

③学習の過程や成長を振り返ることができるように、毎時間の学びの記録を動画に残すようにする。

*記録に残していくことで、生徒自身も自身の学びを振り返ることができる。

【活用したソフトや機能】 MetaMoJi classroom（アイディア・マップなどの共有、動画撮影）03

振り返り

※大阪府貝塚市立二色学園 第7学年の実践



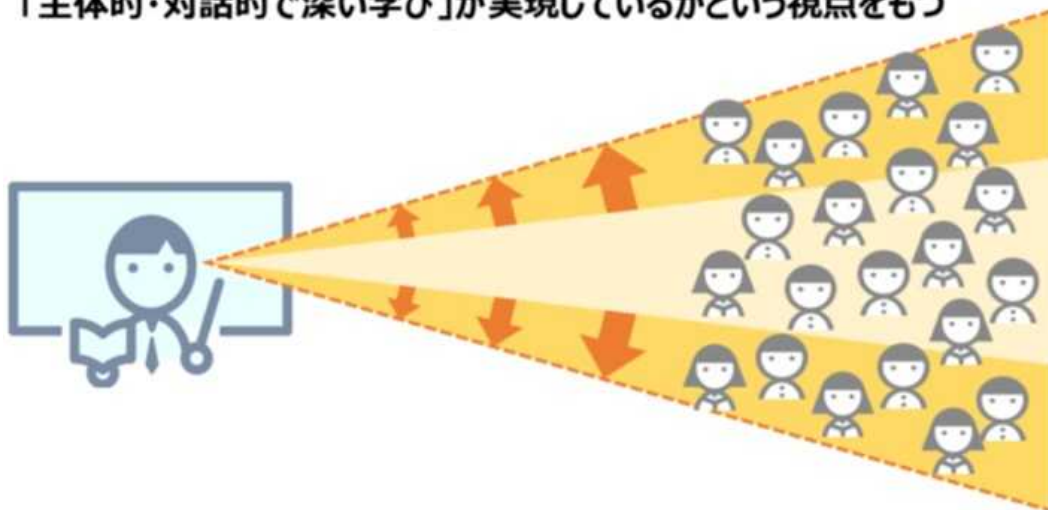
I am really impressed because at first, they were really having trouble expressing their ideas and also with the other students a little trouble asking questions. But during the final session, I think they did a wonderful job, so **they could express their ideas nicely. They have good introduction and also like a very good ending. I think that's a very good job.**

E 個に応じた指導の充実

生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、**個に応じた指導の充実**を図ること。その際、第3の1の(3)に示す情報手段や教材・教具の活用を図ること。

中学校学習指導要領（平成29年告示）第1章第4（4）

誰一人取り残さず全ての子供たちに
「主体的・対話的で深い学び」が実現しているかという視点をもつ



E 個に応じた指導の充実

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、
誰一人取り残さない形で、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



主体的・対話的で
深い学びの実現

授業改善

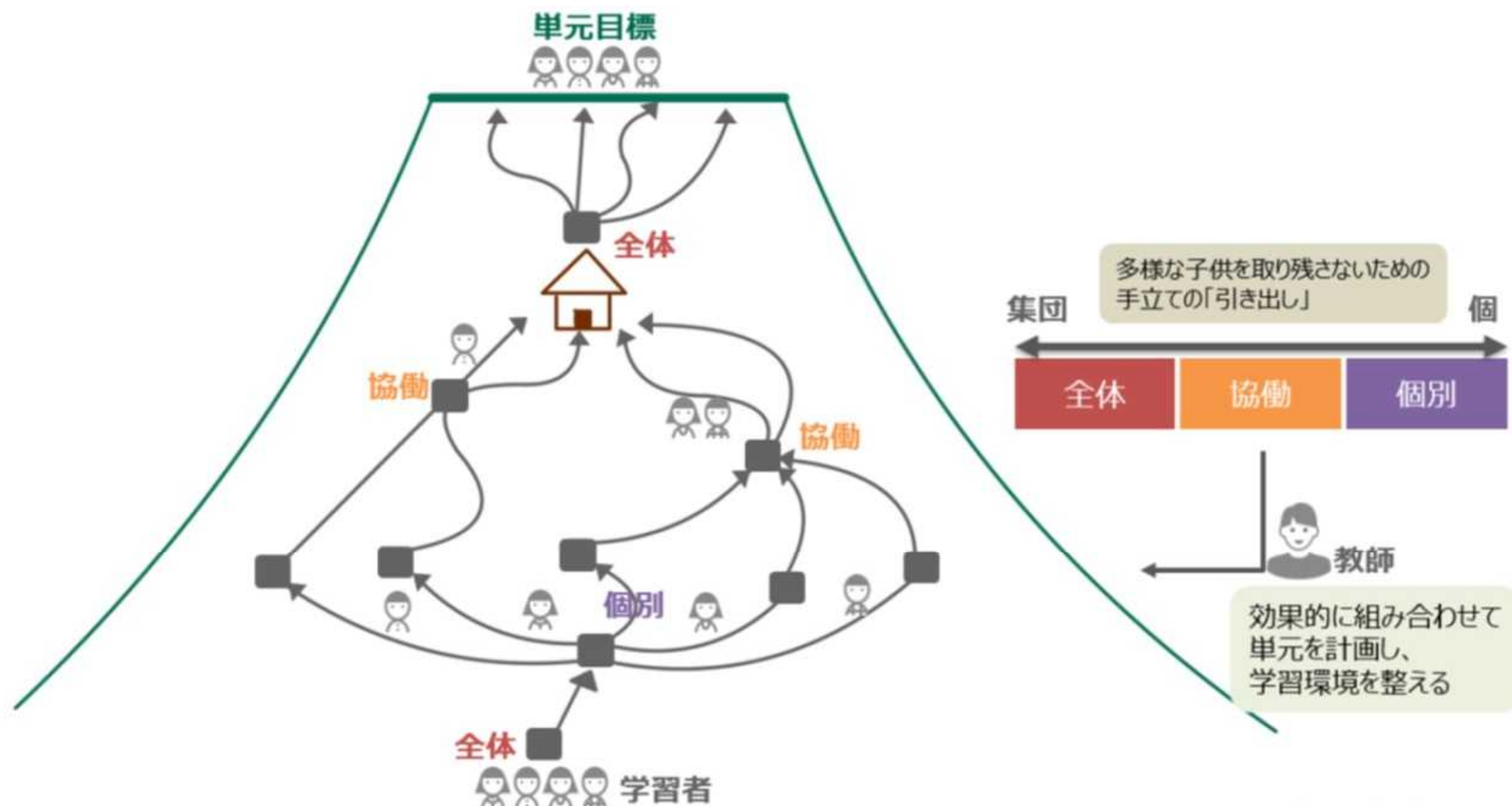


全ての子供に
これからの社会を生きる
資質・能力を育む

多様な子供を誰一人
取り残さない視点

**個別最適な学びと協働的な学び
一体的充実**

E 個に応じた指導の充実



一人一人異なる 子供の学びの過程

E 個に応じた指導の充実

【参考資料8】

デジタル学習基盤が可能とする学びの姿（イメージ）

令和6年11月13日
中央教育審議会
デジタル学習基盤特別委員会資料

働き方改革

- ・研修を含む校務処理の負担軽減・効率化
- ・ロケーションフリーでの業務

データ連携

- ・データの可視化による学習指導等の高度化

レジリエンス確保



校務DXのための環境

- ・汎用のクラウドツールの活用
- ・校務系・学習系ネットワークの統合
- ・校務支援システムのクラウド化
- ・ダッシュボードの創出
- ・セキュリティの確保

【個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実】

個別最適な学び

指導の個別化
必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫等による学習内容の確実な定着を図る
ex.) 一人一人に合った教材の提供

学習の個性化
一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供により学習を深め、広げる
ex.) 子供の関心・特性に応じた多様な学び

協働的な学び

多様な他者との協働により、異なる考え方が組み合わせりよりよい学びを生み出す
ex.) 好きなタイミングでの他者参照や共同編集

【デジタル学習基盤による情報活用の飛躍的充実】

情報活用の場面

収集 判断 表現 処理
創造 発信 伝達

✕ 組み合わせ

充実の具体的な姿

すぐに # いつでも # どこでも
1人1人に応じて # 大量に # 誰とでも
何度でも

全ての子供を誰一人取り残すことなく
これからの社会を生きる資質・能力を育む



多様な子供たちにとって包摂的で、
主体的・対話的で深い学びの
一層の充実に資する学習環境の実現

加速

学びの専門職としての教師の役割

- ・個々の「情報」を一人一人の深い学びにつなげ、資質・能力を育むための学習・指導の計画
- ・適切な見取りと児童生徒への効果的な支援
- ・主体的に学ぶことができる適切な学習環境整備



デジタル学習基盤の整備

- ✓ 児童生徒の端末
- ✓ デジタル教材・学習支援ソフトウェア

- ✓ 通信ネットワーク
- ✓ CBTシステム (MEXCBT)

- ✓ 周辺機器
- ✓ 教育データ利活用

- ✓ デジタル教科書
- ✓ 情報セキュリティ



中学校第3学年 外国語 「This is Me」

■単元の目標

クラスメイトに向けて「This is me」を伝えるために、様々なスピーチ文を自分の考えと比較しながら読んだり、友達とやり取りしたりしたことを基に、伝える内容をメモに整理することを通して、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

■単元の概要

将来の夢について、書き手や構成が異なる様々なスピーチ文や自分のキャリアパスポート、過去の学習の振り返りなどに触れながら、伝える内容をメモに整理して表現することを繰り返し行う。

■単元の指導計画（9時間）

第1時

「単元の見通しをもつ」

- ① 1 年度自分の動画を見返し、内容面や構成面、言語面について現在の姿と比較する。
「自己の変容・成長」について英語でやり取りをし、単元の見通しをもつ。
・卒業生などの過去のスピーチ動画を見る。

第2～5時

「教科書の内容・表現について考えを深める」

- ・学習者用デジタル教科書、Natural Reader、ELSA Analyzer も用いながら、教科書内容の理解を深める。（個別最適な学び）
- ・考えたことや感じたこと、スピーチの工夫点について友達とやり取りする。（協働的な学び）

第6～9時

「読む→考える→整理する→話す」

- ・スピーチ文を自分の考えと比較しながら読み、情報の吟味、整理、発表を繰り返し行う。
- ・生成AIを補助的に用いて英文を読む。
- ・必要に応じて、キャリアパスポート、総合的な学習の時間での学びを蓄積した「生き方シート」を見返す。

■単位時間の概要

2年次に行った「将来の夢」の発表動画やメモを振り返り、現在の自分の姿と比較する。「自己の変容・成長」について英語でやり取りをした後、3年間共に過ごしたクラスメイトに卒業スピーチを行うという単元のゴールの活動を理解し、見通しをもつ。

教科書に載っているスピーチ文について、ICT（生成AIを含む）も用いながら「聞く、読む、話す」活動に取り組み、内容や構成、言語面の理解を深める。教科書のスピーチから考えたことや感じたこと、スピーチの工夫点について、友達と英語でやり取りする。

自分のスピーチの課題（内容面、構成面、言語面）を解決するために、教師が生成AIを活用して作成した「書き手」「構成」「語彙数」が異なる複数のスピーチ英文を複数選択する。自分の考えと比較しながら選択した英文を読んだり、キャリアパスポートなどを活用して自己と向き合ったりする学習（個別最適な学び）と、考えたことを友達と英語でやり取りする学習（協働的な学び）を往還しながら、スピーチの内容を深めていく。

E 個に応じた指導の充実

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（第7時）

【学習活動の場面】

伝えたい内容をメモに整理し、教科書のスピーチを読んだ生徒たちは「将来の夢に対する考え方や表現（段落構成や言語面）が参考になったので、もっと他のスピーチにも触れたい」との考えをもった。そこで教師は「**自分の考えを深めるために、様々なスピーチを選んで読み、自分のスピーチに生かそう**」と投げかけた。

【生徒の「深い学び」の姿】

Aの本時の目標「将来の夢（職業）が決まっていないので、スピーチの構成に悩んでいる。「将来」そのものについて他の人がどう考えているか知りたいし、読み手を惹きつけられるような導入にしていきたい。」

Aは、「イギリス在住、同い年、夢がテーマ、350語のスピーチ」を選択した。

- ・読んで考えたことのメモの一部
「夢＝職業ではなく、生涯を通してやりたいこと」
「職業が決まっていない人が多い」
「将来に対しての考え方が違う」



- ・クラウド上で共有された同じ英文を選んだ友達のメモ（スピーチを読んで考えたこと）を参考に、自身のキャリアパスポートを振り返り、スピーチメモを整理した。

Aは、考えを整理して友達に発表した後、振り返りを記述した。

「将来の夢がないので何も伝えられないと思っていたが、「what we enjoy or what we are good at」の部分を読んで、自信をもって自分のしたいことを伝えたいと思ったし、今までにない考え方に触れることができた。小学校の自分がどんな考えだったのか知ることができたので、導入の工夫として当時の気持ちを伝えたい。」

【当該指導での「深い学び」】

Aは、**様々な内容のスピーチをICTを活用しながら読むことで、自分と比較しながら考え、書き手の思いや工夫点等に気付いた。それらを整理することで、自分の伝えたい内容を更に深めることができた。**

【活用したソフトや機能】ロイロノート（共有・メモ）、Natural Reader（音声読み上げ）、ChatGPT（生成AIによる参考スピーチ作成）、DeepL Write（生成AIを活用した推敲の検討）

② 尊上の工夫と ICTの利活用

①生徒が、カテゴライズされたスピーチ英文をクラス共有ノートから自由に選択できるようにする。

*スピーチ英文を書き手、語彙、構成別に整理して示すことで、生徒が、自分の願いに合った英文を選択することができる。

②生徒が、**自分のペースで英文を読み、考えを深めることができるような場を設定する。**

*単元を通して「聞く、読む、話す」活動で、ICT（生成AIを含む）を活用する場を設けることで、生徒は初めて出会う英文にも抵抗感なく読むことができ、読んだことを基に自分のスピーチ内容を整理することができる。

③**同じスピーチを選択した友達のメモからも考えを共有できる。**

*学級全員のメモを可視化することで、目の前のグループとのやり取りだけではなく、同じスピーチを選択した友達の考えにも触れることができ、自分の考えをさらに深めることができる。

中学校第1学年 外国語 「Welcome to ATAGO JHS！」

■単元の目標

小学校6年生が安心して中学校に入学することができるように、「1日体験入学」の場で「愛宕中学校の魅力」について、伝える内容や構成、表現などを整理することを通して、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

■単元の概要

小学校6年生が中学校生活について知りたいことなどを把握し、伝えたい学校紹介の内容や構成、表現などについて考え、整理し、繰り返し練習する活動を行う。

■単元の指導計画（6時間）

第1時

「単元の見通しをもつ」

- ・小学生に「愛宕中学校の魅力」を英語で発表するという単元のゴールを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。
- ・JTEとALTが提示するモデルの内容や構成、表現などを確認する。

第2～4時

「小学生とのオンライン交流」

- ・小学生とやり取りをし、小学生の知りたい中学校生活の情報や興味・関心などを把握する。
- ・交流を生かして紹介したい内容や構成、表現などを考え、整理する。

「伝えたい内容と表現の再構築」

- ・友達とやり取りをして内容を深める。
- ・自身の発表をグループの仲間に聞いてもらったり、録画したりすることを通して、内容と表現を再構築する。

第5～6時

「Welcome to ATAGO JHS！」（1日体験入学）

■単位時間の概要

JTEとALT、2年生によるモデルを見ることで、単元目標とゴールイメージ、学習の進め方について見通しをもつ。提示されたモデルの内容や構成の工夫、表現などを確認する。

※クラウド上で、いつでも単元目標や学習の進め方等を確認することができる。

小学生と英語でオンライン交流をし、小学生の知りたい中学校生活の情報や興味・関心などを把握する。交流したことを基に、紹介したい内容をアイディア・マップにまとめクラウドで共有する。共有された友達の考えを参考にしながら、伝えたい内容を深めていく。

友達と何度も英語でやり取りしながら、伝えたい内容を深めていく。ある程度、発表したい内容がまとまったところで、グループの仲間に聞いてもらったり、自分で録画したりする。「小学校6年生が安心して中学に入学することができるような学校紹介になっているか」という視点で、友達やALTからアドバイスをもらったり、自身の発表内容や表現を確認したりして、再構築していく。

E 個に応じた指導の充実

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（第4時）

【学習活動の場面】

小学生の知りたい情報や興味・関心などを踏まえて紹介したい内容や構成、表現を考えてきた生徒は、「中学校生活に不安や期待を抱いている小学生が安心して入学できるように、分かりやすく伝えることが大切だ」との考えをもった。そこで教師は「自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えるために、相手意識を明確にしたシミュレーション（練習）を行い、発表に生かそう」と投げかけた。

【生徒の「深い学び」の姿】

Aは、次のような目標を立てた。

「愛宕中の先生方について、小学生とやり取りをしながら紹介することはできると思う。自分では『このくらいの英語で伝わるだろう』と思っているけれど、本当に伝わるのかが不安。いろんな友達と何回も練習したいし、発表内容や構成について意見を聞きたい。小学生が懂れてくれるような発表にしたい。」

Aは、クラウドで共有されているモデルと、前時までに撮影した自身の動画を比較し、発表内容を確認、修正、練習した。

▶確認の視点：小学生が聞きたいことについて、分かりやすく説明しているか（内容面）
相手に伝わる英語で表現できているか（言語面）

その後、Aは、学習グループの友達に複数回聞いてもらい、コメントをもらった。

Aは、改善点を整理し、再度練習に取り組み、ALTに発表した。

授業が終わった後、自分の発表を動画に残した。

「伝える順序を意識して発表することの良さに気付き、実際にやってみることができた。さらに分かりやすく伝えるためには、例を挙げるとよいと学んだ。何度も練習していきたい。」



【当該指導での「深い学び」】

Aは、小学生が安心して中学校に入学できるように分かりやすい発表にしようとする中で、クラウドで共有されているモデルと、自身の発表とを比較することで発表内容を確認、修正、練習をした。その後、友達にも何度も聞いてもらい、コメントをもらうことで、よくなったことやさらに改善するとよいところを明らかにし、発表内容をよりよいものにしていけることができた。

■指導上の工夫とICTの利活用

①生徒が、いつでも単元目標や学習の進め方、モデルを確認することができるようにする。

*クラウド上に目標やモデル等を共有することで、生徒は本単元で目指す姿をいつでも確認することができる。また、困った時はいつでも参考にすることができる。

②生徒が、発表内容を再構築できるように、クラウドで共有したモデルと、自身の発表とを比較する場を設ける。

*内容面と言語面における確認の視点をもたせ既習事項と関連付けて指導することで、本単元で目指す姿に近付けることができる。

③学習の過程や成長を振り返ることができるように、毎時間の学びの記録を動画に残すようにする。

*記録に残していくことで、生徒自身も自身の学びを振り返ることができる。

【活用したソフトや機能】 MetaMoJi classroom（アイディア・マップなどの共有、動画撮影）

① 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る授業づくりについて学ぶ

文部科学省サポートマガジン『みるみる』

<https://mext-curriculum-gov.note.jp/m/m3b4a6bc792d6>



② 授業づくりについて学ぶ1

令和5年度全国学力・学習状況調査調査結果を踏まえた
学習指導の改善・充実に関する指導事例集

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou/eigo/r07.html>



③ 授業づくりについて学ぶ2

文部科学省/mextchannel 外国語教育はこう変わる！
(新たに4本の動画を追加)

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f>



■思考・判断・表現の学習評価問題例を中心に掲載

■随時更新

- ・ 知識・技能の問題を追加
- ・ 技能統合の問題を追加
- ・ 全国学力調査の問題を追加

徳島県英語教育推進計画 COMPASS

「指導と評価の一体化」サイト
— 外国語 —

小学校 中学校 高等学校

【中学校】の学習到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
はっきりと聞かされた後、日常的な話題について、必要な情報を得ることができる。	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を得ることができる。	自分の考えや感情について、簡単な語句や文を用いて相手に伝えようことができる。	自分の考えや感情について、簡単な語句や文を用いて相手に伝えようことができる。	自分の考えや感情について、簡単な語句や文を用いて相手に伝えようことができる。
聞くこと イ はっきりと聞かされた後、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。	読むこと イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。	話すこと（やり取り） イ 自分の考えや感情について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。	話すこと（発表） イ 自分の考えや感情について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。	書くこと イ 自分の考えや感情について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

【学習評価問題例】②

オーストラリアから徳島県の中学校に来る予定のモニカ（Monica）さんから、あなたのクラス宛ての自己紹介文が電子メールで届きました。これを読んで、次の問いに答えなさい。

My name is Monica Anderson. I live in Australia. I can see you in December. I can't wait!

I like netball and sometimes play it with my friends after school. I would like to show you how to play it and try other sports with you. Do you like sports?

Sometimes, I eat Japanese food such as edamame, teriyaki chicken with my family.

I want to try other Japanese food in Japan. Please tell me good Japanese food.

I study Japanese every day, but I can't speak it well. I want to practice it and talk with you a lot.

Thank you.

11 英文中の [] でのようなことを書いていたと考えられますか。最も適する文を次のア～エから1つ選びなさい。 []

ア I want to eat Japanese food.

イ I am watching sports on TV.

ウ I want to play netball.

エ I am looking forward to seeing you.

12 この英文のタイトルとして最も適するものをア～エの中から1つ選びなさい。 []

ア My favorite places

イ A famous Japanese food

ウ Messages for you in Japan

エ My favorite sports

13 あなたはモニカさんのメールに対して返信することになりました。モニカさんの内容をふまえて、25語以上の英文で書きなさい。 []

ID: COMPASS

Pass: English



[https://www.pref.tokushima.lg.jp/compass-private-/](https://www.pref.tokushima.lg.jp/compass-private/)

県学力向上関係資料

県学力向上関係資料 メニュー

- ▶ GIGA・とくしま学び通信
- ▶ 学力向上推進員研修会
- ▶ 徳島県学力向上確認プリント
 - ・ 小学校：4年 5年 6年
 - ・ 中学校：1年 2年
- ▶ 学力ステップアップテスト（調査問題）
 - ・ 小学校：4年 5年
 - ・ 中学校：1年 2年
- ▶ 学力ステップアップテスト（分析）
- ▶ 学習ガイド関係資料
 - 小学校：国語 算数 理科 外国語
 - 中学校：国語 数学 理科 英語
- ▶ 授業づくり研修
 - ・ 令和5年度（小学校：国、算 中学校：国、数、英）
 - ・ 令和4年度（小学校：国、算 中学校：国、数、理）
 - ・ 令和3年度（小学校：国、算、理 中学校：国、数）

徳島県学力向上確認プリント
中2英語 6回分

学習ガイド関係資料
活用問題

授業づくり研修
全国学力・学習状況調査をもと
にした授業づくりに関する資料



<https://siryou.tokushima-ec.ed.jp/>

- 文部科学省では、デジタル教科書の効果的な活用を普及促進するため、デジタル教科書の効果的な活用に関する事例集や研修動画を作成し、文部科学省HPにて公表しています。（下記URL参照）
学校現場の教職員の方や、教育委員会などの管理機関において学校教育を担当する職員の方におかれましては、研修を行う際などに、是非ご活用ください。
- また、学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方や、導入に当たっての留意点等については、「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」も作成しています。あわせてご利用ください。

<文部科学省HP：学習者用デジタル教科書の制度化>

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/seido/1407731.htm ※事例集等は「関係資料」の欄に掲載しています。



学習者用デジタル教科書について

本館は本館から集約した学習者用デジタル教科書（以下「学習者用デジタル教科書」という。）の活用に関する事例集や、研修動画を公表し、学校現場の教職員の方や、教育委員会などの管理機関において学校教育を担当する職員の方におかれましては、研修を行う際などに、是非ご活用ください。

本館では、学習者用デジタル教科書の活用に関する事例集や、研修動画を公表し、学校現場の教職員の方や、教育委員会などの管理機関において学校教育を担当する職員の方におかれましては、研修を行う際などに、是非ご活用ください。

<学習者用デジタル教科書>

紙の教科書と学習者用コンピュータの活用を比較対照した図表が示されています。

事例集・研修動画のURLはこちら



導入

① 動画・音声教材で子供の関心をつかむ！

事例集 p.30

風連中学校 1年生 数学

「既習事項の振り返りと動画教材の視聴による見通しの明確化」

円錐の体積の求め方を考えるに当たり、授業の導入部で、デジタル教科書の動画教材を視聴。模型に水を入れる様子から、円柱と円錐の体積の関係性を視覚的に捉えさせ、課題解決に向けた見通しを確実にもたせる。

主体的な学び

② デジタル教科書を駆使してとことん試行錯誤！

事例集 p.27

門前中学校 2年生 数学

「デジタル教科書を使って粘り強く試行錯誤」

デジタル教科書のシミュレーション機能を活用し、試行錯誤させる。補助線や文字の書き込み、図形の拡大・縮小・複製等、自由に図形を動かしながら思考させ、子供の多様な発想を引出す。

③ 多様な機能を用いて学びを自己調整！

事例集 p.12

柏第四小学校 5年生 外国語

「ゴールに向けた個別の学習方法を学習者に委ねる」

注文・会計のやりとりをペアで実践するに当たり、その準備として、自分が必要だと思う内容を自分のペースで学習させる。ゴールが明確でデジタル教科書での学び方が分かっていたら、自己調整できる。

対話的な学び

④ 学級全体の共有に学習支援ソフトも活用！

事例集 p.34

名寄小学校 5年生 算数

「ワークシートで理解度を可視化し、児童間の交流を促進」

デジタル教科書を切り抜き作成したワークシートにより試行錯誤させ、その結果を学習支援ソフトで全体に共有。その際、児童に理解度に応じワークシートを色分けしてもらい、授業者は支援対象の把握、児童は他者の考えから学ぶ機会として活用。

⑤ 互いに学び合う！ 録音・録画 × 共有

事例集 p.21

西ノ京中学校 2年生 外国語

「アドバイスを録音・共有し、ペア・学級全体で学び合う」

デジタル教科書で学んだ表現を参考にスピーチを作成し、ペアで録音。表現面・内容面に関するお互いのアドバイスを学習者用端末で録音・共有。生徒一人一人の気付きや学級全体の学び合いを促進。

深い学び

⑥ デジタルコンテンツを総動員！学びを深める情報整理

事例集 p.24

加納岩小学校 6年生 外国語

「デジタル教科書の様々な単元を行き来し、学びを深める授業作り」

「家庭学習との結びつけ」や子供たちの「課題を解決したい」を引き出す授業にデジタル教科書等を活用。子供たち自ら様々な単元やコンテンツを行き来して、既習事項に立ち返りながら理解を深め、考えを形成する姿を実現。

美国南中学校 2年生 外国語

「即興のやり取りに向けたデジタル教科書を使った情報収集」

ディスカッションの場面で、自分の意見を即興で伝えるに当たり、その理由を添える表現をデジタル教科書から探させる。子供たち自らが、学んだ内容を結び付けながら情報を整理し、論理的に意見を伝える姿を実現。

家庭学習

⑦ 家庭学習も学習支援ソフトで共有

事例集 p.23

加納岩小学校 6年生 外国語

「『学び方を学ぶ』ための、家庭学習×デジタル一覧シート」

家庭学習にデジタル教科書を活用。取組内容は子供たちに委ね、学習支援ソフト上のワークシートを使って個々の取組(単元・コンテンツ・振り返り等)を記録・共有。他者の取組を参考にし、授業と関連づけて学んでいく自律的な学習者を育成。

詳細は、以下のコンテンツも参照ください

実践事例集

令和5年度実証研究事業に参加した全国10の小・中学校の授業改善事例を紹介。デジタル教科書等を活用した「授業改善のポイント」について、実際の授業の流れや授業者や児童生徒の声とともに紹介。

https://www.next.go.jp/content/20240621-mst_kyokasyo01-000035395_2.pdf

実践事例動画

デジタル教科書等を活用した授業づくりを、5分から10分程度の動画で紹介。英語、算数・数学の別に授業を一つ取り上げ、授業の流れに沿ってデジタル教科書等の活用方法を解説。そのほか、活用シーンをTipsにとりまとめた動画も掲載。

https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGxGZ3lmbAoZ0zIw_hShiQbQNXnAD5m



授業の活発な流れを維持しながら、
デジタル教科書等を活用する京都府
京都市立西ノ京中学校

授業改善のポイント

A

デジタル教科書等で実現する、個別最適な語彙練習



改善の観点

主体的

対話的

深い



動画で見る



デジタル教科書等の活用方法

デジタル教科書から必要な語彙を選ばせ、学習支援ソフトでまとめる

- 「単元ゴールの発表活動に必要な表現」や「自分が習得したい単語」を、生徒自身でデジタル教科書から集め、学習支援ソフトに各々のまとめ方で整理させる。

有識者
からの
アドバイス

生徒は出てきた単語を全部覚えなければいけないという発想に陥りがちなので、選考際に「自分が表現するために必要な単語は何か」を考えさせることが大切です。(東京家政大学 太田洋 教授)

- 一人では探せない生徒もいるため、はじめはペアで、自分が選んだところや選んだ理由を話し合わせる。学習支援ソフトの共有機能を活かし、生徒が選びまとめたものを学級全体で共有。

授業者
からの
アドバイス

大事な表現を一箇所にまとめられ、整理や見直し、修正もしやすいのがデジタルの良さです。以前はインターネットで検索した正確でない表現を使っていた生徒も、デジタル教科書でまとめや振り返りが容易になったことで、教科書から学んだ正しい表現を使うようになりました。(加藤葉 教諭)

目的・場面を生徒に理解させ、「型を与えて、生徒に委ねる」

- 授業者が活用が有効だと思う目的と場面をしっかりと考え、生徒に取り組む内容の型を提示することで、戸惑うことなく活動に臨み、自ら学ぶことができるように。
- 委ねて手放すだけでなく、教師が見とりサポートすることも重要。

授業者
からの
アドバイス

以前は教師が授業をメインで動かす傾向にありましたが、子供たちは自分の予想以上の取組をしてくれました。「生徒に委ねる部分」と「教師がコントロールする部分」のバランスを、場面や生徒によって考えることが大切だと感じました。(加藤葉 教諭)



▲集める箇所・まとめ方は生徒により様々
(生徒の声は動画参照)

授業改善の効果

授業者の声

- 取組前は、授業者が重要語彙を選び生徒に示していましたが、生徒自身に習得すべき語彙を選ばせる活動を続け、英語が苦手な生徒も使うことができるようになってきました。「自分で選んだ単語だから」という理由だと思います。生徒にとっては、先生が一方的に与えるものより、取り組む意欲がわくのでしょうか。(加藤葉 教諭)

生徒向けアンケートの結果

- 授業後に行った生徒向けアンケートでは、「語彙を選んだ理由」を調査。以下のような回答から、発表活動や習得状況を意識した取組ができていることが分かる。

- 自分の考えに繋がるような、発表に活かせる表現を選択。
- (教科書の語彙は)友達も聞いていて分かりやすく、自分も覚えやすいから選びました。
- 自分が何回もまちがえてしまうところとか、先生が大事といった言葉とかを選びました。

有識者の声

- 観察していた生徒も、英語が苦手とは思えないほど伝える相手を意識しながら分かりやすい英語で説明しており、印象的でした。取組の成果が出ていたと思います。(東京家政大学 太田洋 教授)



中学校：学習到達目標 編

【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！
～前編(授業)～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！
～後編(授業)～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
前編



【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
後編



小中連携 編

【解説】
外国語教育における小中連携
必要性とポイント



【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
前編



【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
後編



中学校：パフォーマンステスト 編

【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
前編



【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
後編





中学校：言語活動 編 ①

New
!

【授業】
教師の指導力向上に向けた実践例①
～領域目標 話すこと[やり取り]～



New
!

【授業】
教師の指導力向上に向けた実践例②
～領域目標 話すこと[やり取り]～



New
!

【授業】
教師の指導力向上に向けた実践例③
～領域目標 話すこと[発表]～



【授業】
「読むこと」と「書くこと」の
領域統合の指導例



【授業】
新しい言語材料の導入の仕方例



【解説】
読むことの指導例
～読んだ内容を伝えることを目的として
読ませる指導例～



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～やり取りを重視した授業、ALTを活用した実践～



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～伝え合う内容を重視した授業、
学習集団づくりが大切にされた実践～



【授業】
社会的な話題について
自分の考えをもち表現させる指導例





中学校：言語活動 編 ②

【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！
～前編（授業）～



【対談】
中学校の外国語教育はこう変わる！
～後編（対談）～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！②
～言語活動を通して、言語材料を学ぶ～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！④
～日常的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！⑤
「統合的な言語活動の指導の工夫」



【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
前編



【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
後編





中学校：教師の英語使用状況 編

New!

【授業】

教師の指導力向上に向けた実践例①
～領域目標 話すこと[やり取り]～



New!

【授業】

教師の指導力向上に向けた実践例②
～領域目標 話すこと[やり取り]～



New!

【授業】

教師の指導力向上に向けた実践例③
～領域目標 話すこと[発表]～



【授業】

主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～やり取りを重視した授業、ALTを活用した実践～



【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！②
～言語活動を通して、言語材料を学ぶ～



【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！④
～日常的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！⑤
～総合的な言語活動の指導の工夫～





中学校：評価と一体化した指導 編

【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
前編



【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
後編



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～やり取りを重視した授業、ALTを活用した実践～



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～伝え合う内容を重視した授業、
学習集団づくりが大切にされた実践～



中学校：生徒とのインタラクション 編

【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！②
～言語活動を通して、言語材料を学ぶ～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】
社会的な話題について
自分の考えをもち表現させる指導例



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～やり取りを重視した授業、ALTを活用した実践～

